

第2次成田市食育推進計画

食が育む元気なからだ
食でつながる豊かな心



2018 (平成30) 年 3月

成 田 市

はじめに

【食】

私たちが生きていくうえで欠かすことのできない
生命の源です。



近年、私たちはライフスタイルの多様化や核家族化など、食生活をめぐる環境の変化から、不規則な食事や偏った食生活により、多くの問題を抱えているのが現状です。

本市では、平成23年に『食が育む元気なからだ 食でつながる豊かな心』を基本理念に「成田市食育推進計画」を策定し、食育に関する施策を総合的に展開してまいりました。

しかしながら、生活習慣の乱れからくる肥満や生活習慣病有病者の増加、若者を中心とした朝食欠食などの課題が見受けられることから、こうした状況を踏まえ「第2次成田市食育推進計画」を策定しました。

本計画では、基本理念を引き継ぎ、4つの目標を掲げ、8つの基本施策による具体的な計画のもと、各ライフステージに応じた取り組みを行ってまいります。

本計画を推進していくためには、家庭や地域、関係団体・機関との連携により取り組むことが重要でありますので、今後とも食育への理解から実践につながるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

最後に、この計画の策定にあたり、アンケート調査やワークショップ、パブリックコメントなどで貴重なご意見をいただきました多くの皆様に、心から感謝申し上げます。

平成30年3月

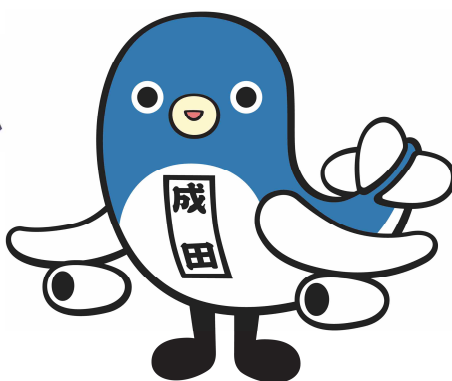
成田市長 小泉一成

目 次

第1章 計画策定にあたって	1
1. 計画策定の趣旨	1
2. 計画の位置づけ	2
3. 計画期間	2
4. 前計画の達成状況	3
第2章 食を取り巻く現状と課題	6
1. 成田市の概要	6
2. 食に関する市民の意識	14
3. ワークショップの開催	41
4. 今後の課題	42
第3章 計画の基本的考え方	44
1. 基本理念	44
2. 基本目標	45
3. 目標値一覧	47
4. 体系図	48
第4章 具体的な取り組み	49
1. 家庭における望ましい食習慣の定着	49
2. 食に関する体験活動の推進	52
3. 学校・幼稚園・保育所等における食育の推進	53
4. 地域等における食生活改善の推進	55
5. 地産地消による交流の促進	57
6. 食の安全・安心への理解	58
7. 食を育む環境への理解	59
8. 郷土料理による食文化の伝承	60
■ ライフステージでみる食育	61

第5章 計画の推進	62
1. ネットワーク体制	62
2. 計画の進行管理	64
資料編	65
1. 成田市食育推進計画策定委員会設置要綱	66
2. 策定経過	68
3. アンケート調査票	69

成田市観光キャラクター
うなりくん



第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

国が「食育基本法」を施行してから10年余が経過しました。以前は「食育」という言葉にあまり馴染みがありませんでしたが、現在では多くの方が理解を示し、食事や健康づくりへの関心が高まり、生活習慣病の予防や改善のため食生活や運動に気をつける人が増えてきています。

しかしながら、社会環境の変化により、食生活をめぐる環境が大きく変化している中で、栄養バランスの偏った食事や不規則な時間での食事の増加、肥満や生活習慣病（がん、糖尿病など）の増加、過度の痩身志向などが問題になるとともに、食の安全性への関心も高まっています。

国では、2016（平成28）年3月に「第3次食育推進基本計画」を策定しています。千葉県でも、2016（平成28）年12月に「第3次千葉県食育推進計画」を策定し、『県民一人ひとりが主役となり、健康で笑顔あふれる暮らし』の実現を目指しています。

本市では、2011（平成23）年3月に「食育推進計画」を策定しました。食育推進についての市民意識の高揚を図るとともに、市民一人ひとりが、自らの食について考える機会や、食に関する様々な知識と食を選択する力を身につけることができるよう取り組んできました。また、家庭や地域、学校、幼稚園、保育所、生産者団体、食品関連事業者、ボランティア等の様々な立場の関係者と連携・協力を図ることで、様々な食育活動を推進してきました。

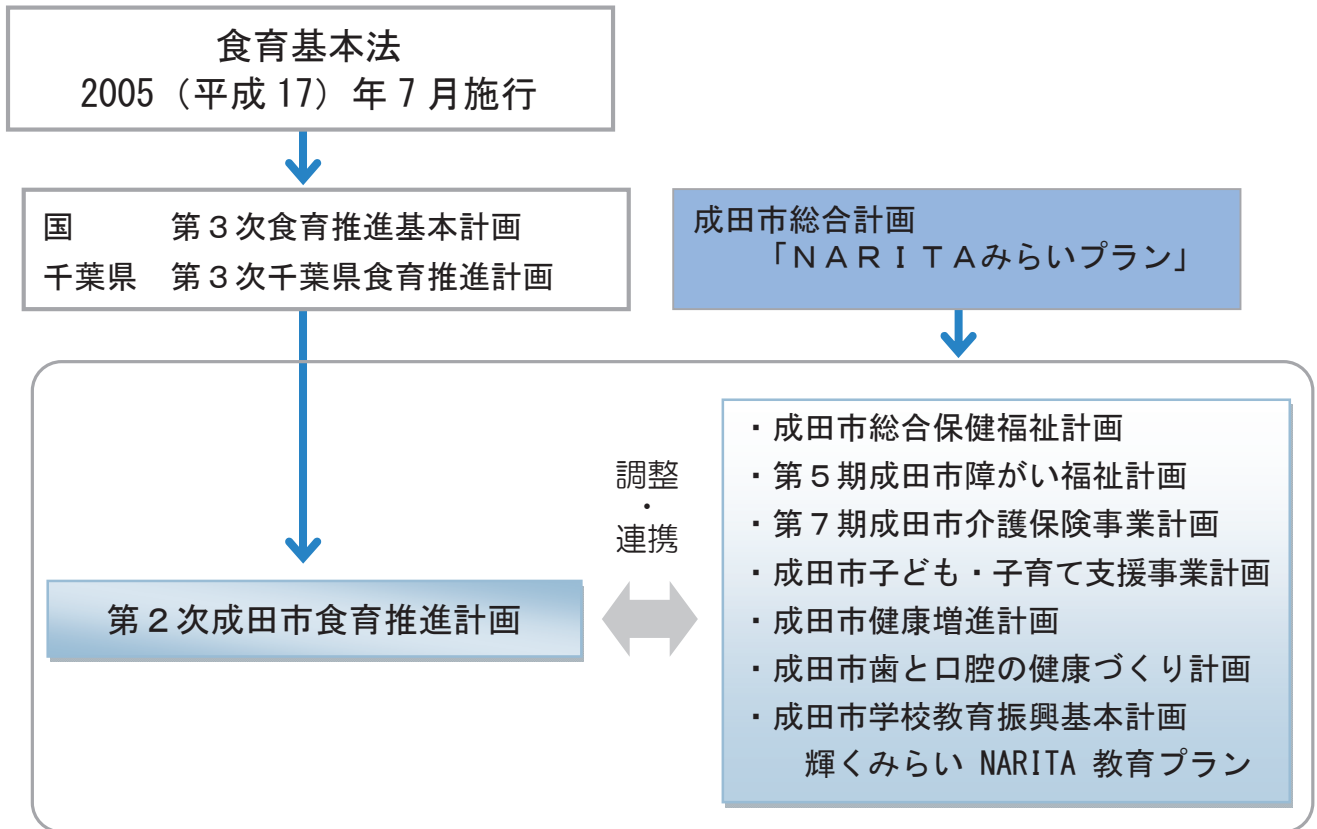
第2次の計画策定にあたっては、第1次の食育推進計画の基本理念を継承した中で、十分な成果が得られなかった課題への引き続いての対応や、新たな取り組みを盛り込むことで、本市の特性を活かし、市民一人ひとりが主役となった食育への取り組みを目指します。

★食育とは・・・

食育は、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの。様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。

2 計画の位置づけ

本計画は、2005（平成 17）年 7 月に施行された食育基本法第 18 条「市町村食育推進計画」の規定に基づく計画として位置付け、千葉県食育推進計画や市の各種計画との整合性を図るものとします。



3 計画期間

本計画の期間は、2018（平成 30）年度から 2022（平成 34）年度までの 5 年間とします。

なお、計画期間中に社会情勢の変化などが生じた場合には、必要に応じて見直すこととします。

2016 (平成 28)年	2017 (平成 29)年	2018 (平成 30)年	2019 (平成 31)年	2020 (平成 32)年	2021 (平成 33)年	2022 (平成 34)年
（国）第 3 次食育推進基本計画						
	（県）第 3 次千葉県食育推進計画					
		第 2 次成田市食育推進計画				

4 前計画の達成状況

(1) 指標の達成状況

前計画については、成果や達成度を指標により把握できるよう 19 項目の数値目標を設定しています。今回実施したアンケート調査の結果を受けての、数値目標の達成度状況は次のとおりです。

- ・・・達成できた項目
- △・・・目標は達成していないものの改善している項目
- ・・・未達成の項目

①食育に関する意識

指標	対象	策定時 2010 (平成 22)年	目標値 2015 (平成 27)年	現状値 2016 (平成 28)年度	国・県現状値 2015 (平成 27)年度	評価
食育を知っている人の割合	小学 5 年生 中学 2 年生	76.6%	80%以上	85.9%	—	○
	20 歳以上	83.9%	90%以上	90.8%	—	○
食育に関心を持っている人の割合	20 歳以上	79.0%	90%以上	74.4%	国 75.0% 県 71.0%	●
食育を実践している人の割合	20 歳以上	57.9%	60%以上	52.8%	—	●

食育の認知度は高まっていますが、食育への関心度及び実践している人の割合については逆に減少しています。食育への関心が、適正な食生活への実践に結びつくことから、引き続き食育の普及・啓発に努めていく必要があります。

②食生活

指標	対象	策定時 2010 (平成 22)年	目標値 2015 (平成 27)年	現状値 2016 (平成 28)年度	国・県現状値 2015 (平成 27)年度	評価
「食事バランスガイド」等の食生活上の指針を参考に行っている人の割合	20 歳以上	43.2%	60%以上	48.1%	—	△
1 日 2 回以上栄養バランスのとれた食事を心がけている人の割合	20 歳以上	49.6%	70%以上	72.2%	—	○

「食事バランスガイド」等の食生活上の指針を参考に行っている人は増えており、また 1 日 2 回以上栄養バランスのとれた食事を心がけている人の割合は、目標値を超えています。今後も引き続き、取り組みを進めてまいります。

③朝食の欠食と食を通じたコミュニケーション

指標	対象	策定時 2010 (平成 22)年	目標値 2015 (平成 27)年	現状値 2016 (平成 28)年度	国・県現状値 2015 (平成 27)年度	評価
朝食を欠食する人の割合	小学 5 年生	1.8%	0%	3.2%	国 4.4% ※1 県 2.0%	●
	中学 2 年生	5.4%	0%	5.7%	国 6.6% ※2 県 4.5%	●
	20 歳代男性	17.3%	15%以下	26.1%	国 24.7% 県 29.3%	●
	20 歳代女性	16.1%	15%以下	19.5%		●
	30 歳代男性	14.5%	12%以下	16.7%		●
	30 歳代女性	8.7%	7%以下	7.0%		○
週 1 回も家族や友人と食事をしていない人の割合	20 歳以上	6.7%	5%以下	7.1%	—	●
	60 歳代	14.3%	12%以下	8.1%	—	○

国における現状値 … ※1 小学校 6 年生、※2 中学校 3 年生のデータ

朝食の欠食については、小学 5 年生、中学 2 年生、20 歳代の男性・女性、30 歳代の男性で、いずれも増加しています。学校での取り組みに加え、若い世代への欠食の対応を検討していく必要があります。

週 1 回も家族や友人と食事をしていない人の割合は、20 歳以上では若干の増加が見られることから、今後も引き続き、食を通じたコミュニケーションを支援していく必要があります。

④地産地消・郷土料理

指標	対象	策定時 2010 (平成 22)年	目標値 2015 (平成 27)年	現状値 2016 (平成 28)年度	国・県現状値 2015 (平成 27)年度	評価
成田市の地場産物の認知度	小学 5 年生 中学 2 年生	32.1%	40%以上	49.2%	—	○
	20 歳以上	41.6%	50%以上	41.8%	—	△
成田市の郷土料理の認知度	20 歳以上	28.4%	30%以上	15.7%	—	●

本市の地場産物の認知度は、20 歳以上の市民では横ばいとなっています。郷土料理の認知度については減っています。今後、地場産物や郷土料理を多くの人に知ってもらうことができるよう、普及に努めていく必要があります。

⑤食育に関するボランティア

指標	対象	策定時 2010 (平成 22)年	目標値 2015 (平成 27)年	現状値 2016 (平成 28)年度	国・県現状値 2015 (平成 27)年度	評価
ちば食育ボランティア数	—	7人	増加	6人	—	●

ちば食育ボランティア数が減少しています。今後、県におけるボランティアの登録や、活動内容のPRなどに協力していきます。

⑥中学校における食・食育に関する計画

指標	対象	策定時 2010 (平成 22)年	目標値 2015 (平成 27)年	現状値 2016 (平成 28)年度	国・県現状値 2015 (平成 27)年度	評価
食・食育に関する計画(指導計画)を策定している中学校の割合	市立中学校	88.9%	100%	90.0%	—	△

小・中学校の統合などがありましたが、指導計画を策定し、それぞれの学校単位での取り組みも含め、食に関する授業などを実施しています。今後も、引き続き、食の大切さを伝えていけるよう取り組みを進めます。

第2章 食を取り巻く現状と課題

1

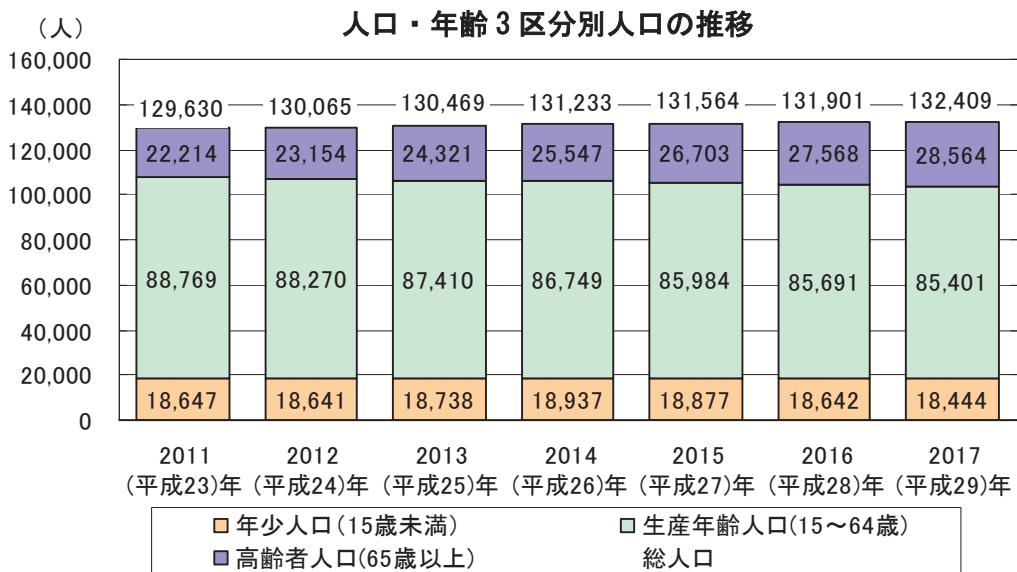
成田市の概要

(1) 人口・世帯

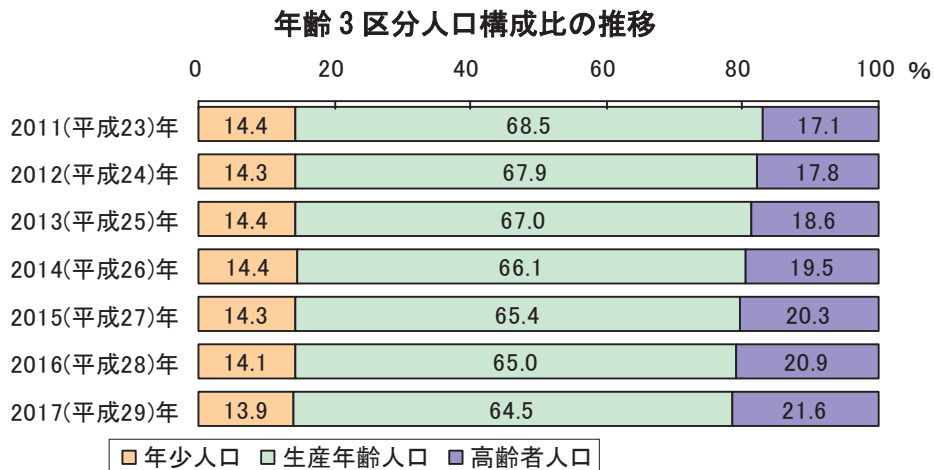
■人口増加が続いている

本市の人口は増加を続けており、2017（平成29）年では132,409人となっています。年齢3区分人口をみると、高齢者人口は増加を続け、2017（平成29）年28,564人、高齢化率は21.6%となっています。

一方、年齢3区分人口については、生産年齢人口は減少が続き、年少人口についても2015（平成27）年以降減少が続いています。2017（平成29）年の年少人口は18,444人、年少人口比率は13.9%、生産年齢人口は85,401人、生産年齢人口比率は64.5%となっています。世帯数は増加を続け、2017（平成29）年60,499世帯となっていますが、1世帯あたり人員は2.19人と減少が続いています。

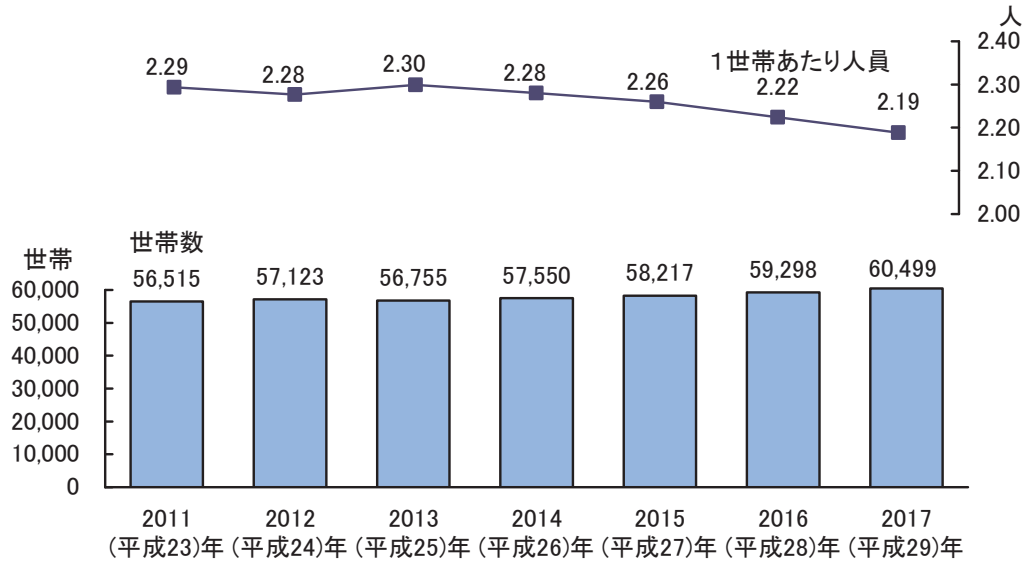


資料：千葉県年齢別・町丁字別人口（各年4月1日現在）



資料：千葉県年齢別・町丁字別人口（各年4月1日現在）

世帯数と1世帯あたり人員の推移



資料: 千葉県年齢別・町丁字別人口(各年4月1日現在)

■働き盛りの世代が多い

年齢別人口構成比を国・県と比べると、本市は20～39歳の働き盛りの世代が多く、65歳以上の高齢者の構成比が低いことがわかります。

年齢別人口構成比の比較



資料: 千葉県年齢別・町丁字別人口 2017(平成29)年4月1日現在
総務省統計局人口推計 2017(平成29)年4月1日

(2) 農業



■ さつまいもの産出額は県内1位

本市では、総面積のうち約37%が農地（田畑）として利用されています。農家人口は減少が続いており、2015（平成27）年6,635人となっています。販売農家は、2015（平成27）年1,651戸ですが、第1種及び第2種兼業農家の減少が続いています。専業農家については、2010（平成22）年までゆるやかな増加が続いていましたが、2015（平成27）年はやや減少し、430戸となっています。

2015（平成27）年の農林水産省都道府県別作物産出額推計によると、さつまいもが県内1位、水稻が県内で3位となっています。

農家人口と専兼業別農家数

単位：人、戸

	2000 （平成12）年	2005 （平成17）年	2010 （平成22）年	2015 （平成27）年
農家人口	14,245	11,509	9,046	6,635
販売農家	2,947	2,493	2,067	1,651
専業農家	441	449	461	430
第1種兼業農家	649	547	479	390
第2種兼業農家	1,857	1,497	1,127	831
自給的農家	318	346	453	511
農家総数	3,265	2,839	2,520	2,162

※2000、2005年は旧3市町の合計 資料：農林業センサス（各年2月1日現在）

■学校給食では年間を通して成田産食材を活用

学校給食では、季節に応じて成田産食材の活用を図っています。

成田産食材の給食活用状況 2016（平成28）年度



■ …食材の使用月を示しています

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
米												
きゅうり												
人参												
大根												
長ネギ												
玉ねぎ												
じゃがいも												
さつまいも												
里芋												
ごぼう												
レンコン												
水菜												
さやいんげん												
キャベツ												
とうもろこし												
青ピーマン												
小松菜												
なす												
チンゲン菜												
かぶ												
もやし												
ほうれん草												
白菜												
椎茸												
生落花生												
メロン												
スイカ												
栗												
梨												
キウイ												

■市民農園と農業体験教室

本市では、自然とふれあえる場として、市民農園の貸し出しを行っています。

本市で管理している市民農園のほかに、民間で経営管理をしている農園が6つあり、それぞれ多くの方々が利用されています。

また、親子農業体験教室と題して、自然とふれあい、収穫の喜びを感じようと、毎年、親子で参加できるイベントを実施しています。

市民農園の設置状況

農園名	地区	区画数
成田市民農園	十余三	123
御料ふれあい農園	三里塚御料	28
並木町ふれあい農園	並木町	124
山王ふれあい農園	公津の杜	100
台畑農園	北須賀	42
武田農園	米野	70
坂田ヶ池ファーム	大竹	18

資料：農政課（平成29年3月現在）



親子農業体験教室の参加状況

	参加家族数	参加者数
2013(平成25)年度	18	64
2014(平成26)年度	25	103
2015(平成27)年度	21	82
2016(平成28)年度	18	66
2017(平成29)年度	15	62

資料：農政課

(3) 食育に関する民間の活動

■「ちば食育ボランティア」の活動状況

「ちば食育ボランティア」は、学校教育や地域活動の場で「食」や「農林水産」に関する知識や経験などを話したり、郷土料理などの調理実習、農業体験の受け入れなどを実施したりするボランティアです。

本市には「ちば食育ボランティア」の登録者が6人います。

本市におけるちば食育ボランティアの登録人数

単位:人

	成田市						千葉県
	登録分野						
	食生活改善	地産地消	食品流通・加工	農林水産業	料理		
団体登録者	—	—	—	—	—	—	3,898
個人登録者	6	2	2	1	2	3	215
合計	6	2	2	1	2	3	4,113

※登録分野は複数登録されているため合計は一致しない

資料:千葉県「ちば食育ボランティア名簿」(平成28年6月現在)

■環境にやさしい農業への取り組み

千葉県では、環境にやさしい農業を進めるため、化学合成農薬と化学肥料を通常の2分の1以下に減らして栽培した農産物を「ちばエコ農産物」として認定しています。

市内には、「ちばエコ農産物」を取り扱っている直売所やスーパーなどの販売協力店が11店舗あります。

「ちば食育サポート企業」は、企業が独自に行う食育活動、または、公的機関や「ちば食育ボランティア」が実践する「食育」活動に支援・協力している企業として、千葉県が募集し登録した企業です。千葉県や市町村、学校、幼稚園、保育所等、ちば食育ボランティアが主体となって行う食育活動にあたり、見学の受け入れ、講師の派遣、調理施設の提供などの支援・協力をしています。

ちばエコ農産物販売協力店舗数・ちば食育サポート企業数

単位:店舗、企業

項目	成田市	千葉県
ちばエコ農産物販売協力店舗数 2016(平成28)年9月14日現在	11	415
ちば食育サポート企業数 2016(平成28)年4月1日現在	2	133

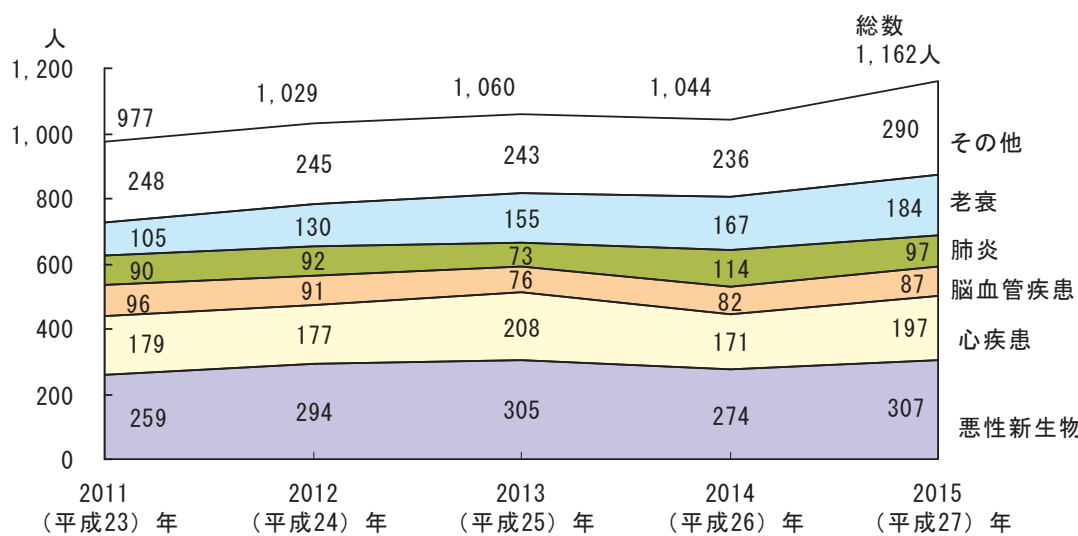
資料:千葉県「ちば食育サポート企業名簿」

(4) 健康の状況

■生活習慣病による死亡者が半数

主要死因別死亡者数は、悪性新生物（がん）、心疾患、老衰、肺炎が上位で推移していますが、生活習慣病による死亡者が半数を占めています。生活習慣病には、日常の食習慣などが深く関わっていることから、栄養バランスを考えた毎日の食生活が大切となります。

本市における主要死因別死亡者数の推移



資料：千葉県衛生統計年報

■平均自立期間は、65歳から男性が約17年、女性が約20年

平均余命^{※1}は、2013（平成25）年時点で、65歳男性 18.19年、65歳女性 23.17年と伸びています。

一方で、県と比較すると男性、女性いずれも本市はやや下回ります。

平均自立期間^{※2}は、2009（平成21）年と比べ、2013（平成25）年はやや短くなっています。

2013（平成25）年時点で、65歳男性 16.97年、65歳女性 20.59年となっています。県との比較では、女性については本市が上回りますが、男性は下回ります。

※1 平均余命

ある年齢の人々がその後生きられる平均の年数。

※2 平均自立期間

日常生活に介護を要しない、要介護2以上の認定を受けるまでの期間。

平均余命と平均自立期間の推移

単位：年

	65歳男性			
	平均余命		平均自立期間	
	2009 (平成21)年	2013 (平成25)年	2009 (平成21)年	2013 (平成25)年
千葉県	18.39	18.89	16.93	17.33
成田市	18.09	18.19	17.10	16.97

	65歳女性			
	平均余命		平均自立期間	
	2009 (平成21)年	2013 (平成25)年	2009 (平成21)年	2013 (平成25)年
千葉県	23.09	23.47	19.96	20.14
成田市	23.13	23.17	20.77	20.59

資料：千葉県健康情報ナビ

2 食に関する市民の意識

食に関する実態や、食育に関するニーズを把握するため、市民及び小学5年生、中学2年生を対象に、アンケート調査を2016（平成28）年度に実施しました。

なお、比較で掲載している前回調査は、2010（平成22）年のアンケート調査の結果です。

調査の概要

項目	①一般市民調査	②小中学生調査
調査対象	市内在住の20歳以上の市民	市内公立小中学校に通う 小学5年生・中学2年生の 児童生徒全員
調査方法	郵送配布・郵送回収	学校での配布・回収
調査期間	2017（平成29年）3月中～下旬	2017（平成29年）3月中～下旬
抽出数	2,000件	2,285件
有効回収数	846件	2,156件
有効回収率	42.3%	94.4%

(1) 食育について

■「食育」の認知度は、市民で90%、小中学生で80%台

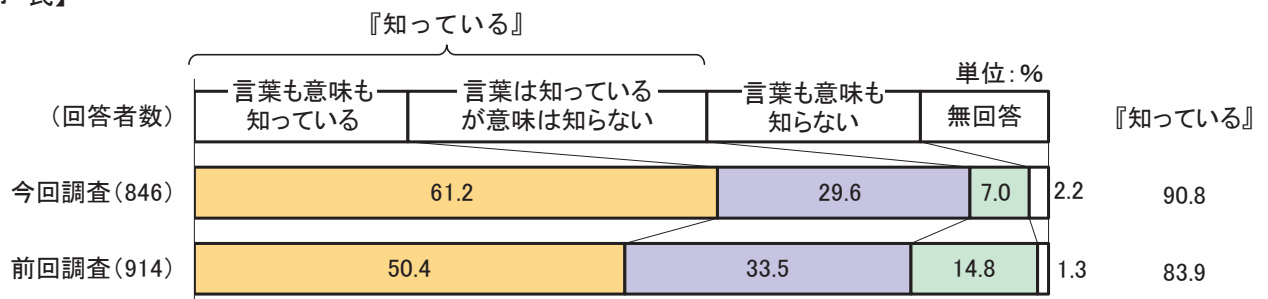
「食育」という言葉の認知度は「言葉も意味も知っている」、「言葉は知っているが、意味は知らない」をあわせると市民では90.8%、小中学生では85.9%となっています。

【前回調査との比較】

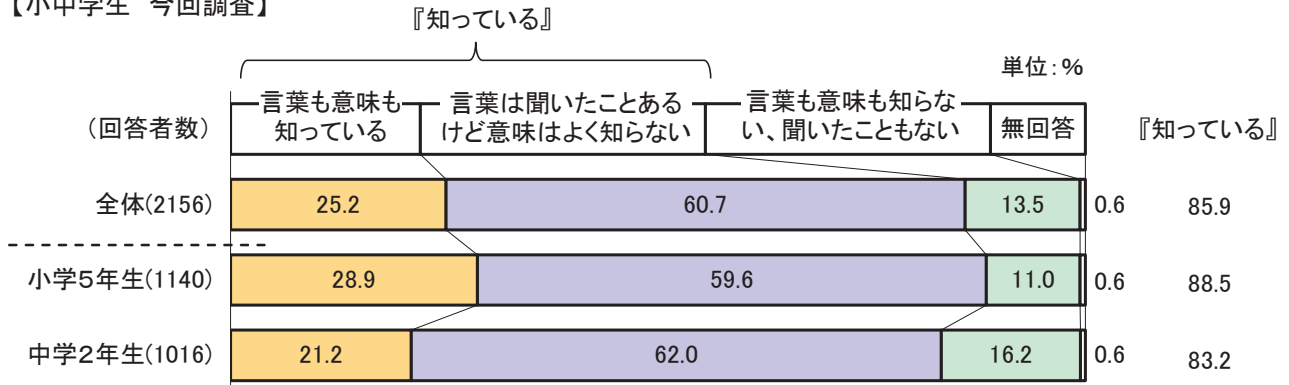
「言葉も意味も知っている」との回答は、市民では大きく、小中学生では、わずかではありますが増加し、「食育」の認知度が高まっていることがわかります。

「食育」という言葉やその意味について

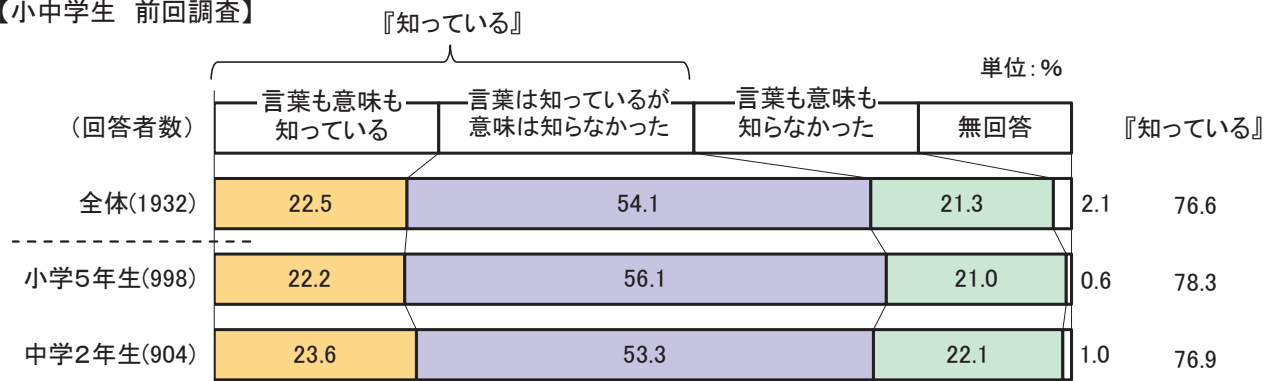
【市民】



【小中学生 今回調査】



【小中学生 前回調査】



■「食育を実践している」は2人に1人

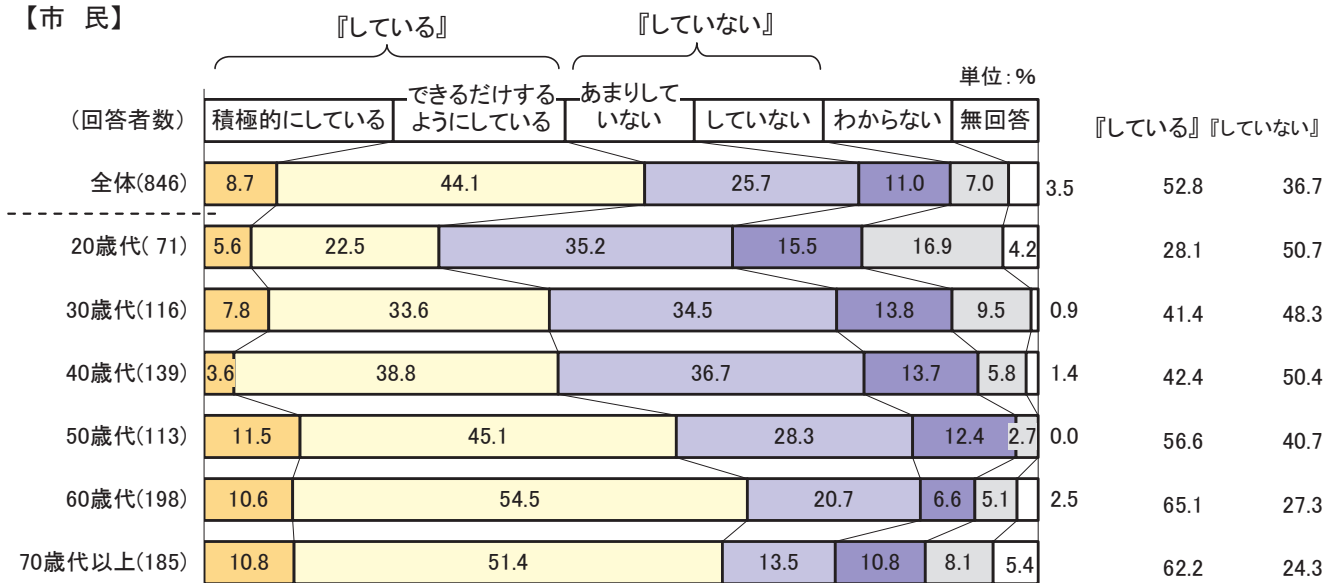
食育の実践について、「積極的にしている」(8.7%)と「できるだけ、するようにしている」(44.1%)をあわせた『している』との回答は52.8%となっています。

【前回調査との比較】

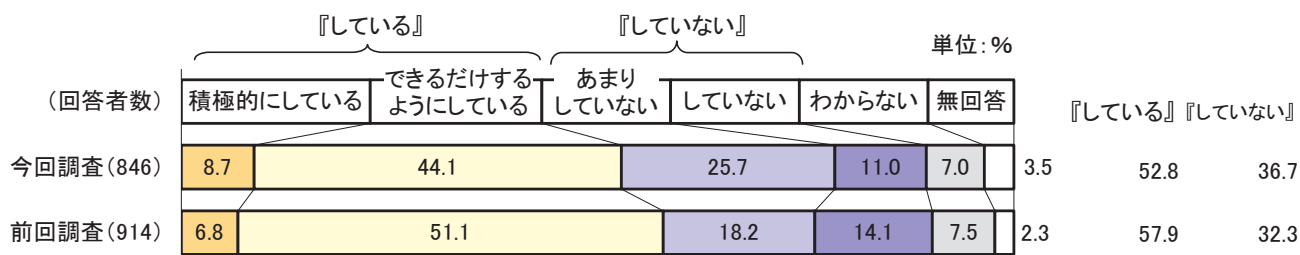
「積極的にしている」との回答は、前回調査に比べやや増加しており、食育の実践を「していない」割合は、前回調査より減少しています。

日頃から「食育」を実践しているか

【市民】



【前回調査との比較】



注: 前回調査の「していない」は「したいと思っているが、実際にはしていない」11.4%と「したいとは思わないし、していない」2.7%の計である。



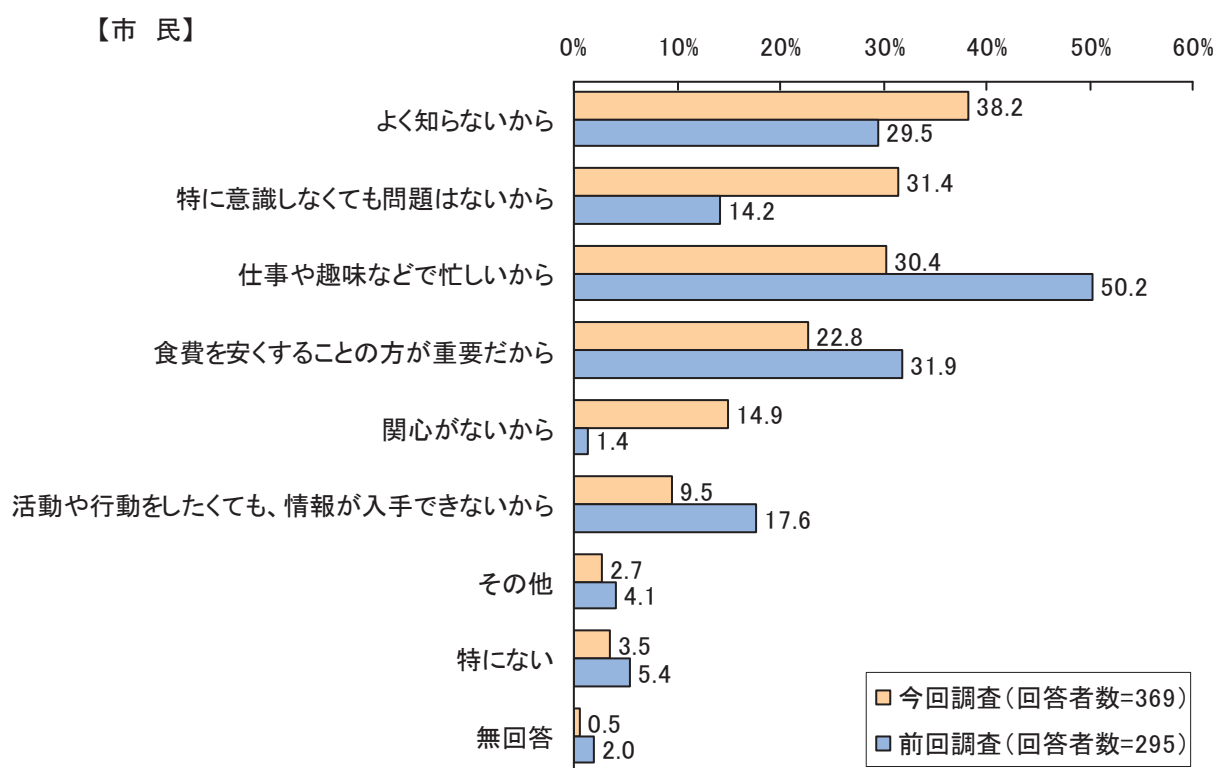
■食育を実践していない理由で最も多いのは、「よく知らないから」

食育を実践していない人にその理由をたずねたところ、「よく知らないから」(38.2%)が最も多く、次いで「特に意識しなくても問題はないから」(31.4%)、「仕事や趣味などで忙しいから」(30.4%)などが主な回答となっています。

【前回調査との比較】

前回調査と選択肢が異なるため単純な比較はできませんが、前回調査の上位項目である「仕事や趣味などで忙しいから」や「食費を安くすることの方が重要だから」との回答は減少、「特に意識しなくても問題はないから」や「関心がないから」との回答が増加しています。

「食育」を実践していない理由 (複数回答)



(2) 食生活について

■「朝食を食べている」は、市民 84.4%、小学生 85.2%、中学生 77.8%

朝食の摂取の割合は、市民及び小学生では80%を超えています。

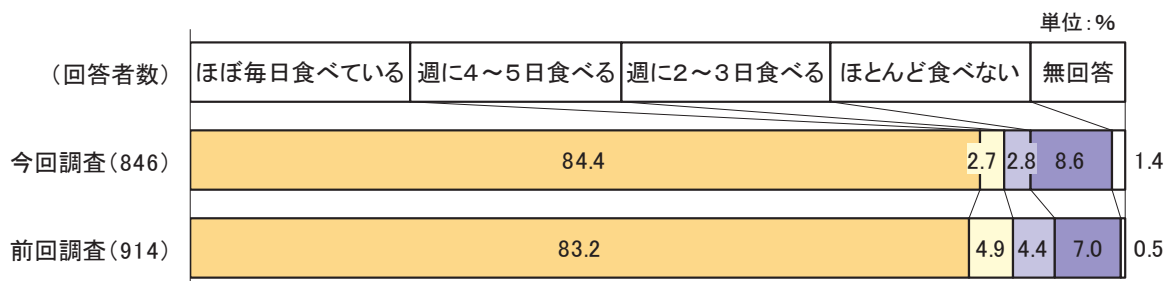
【前回調査との比較】

市民、小中学生の回答ともに、前回調査からほぼ横ばいとなっています。

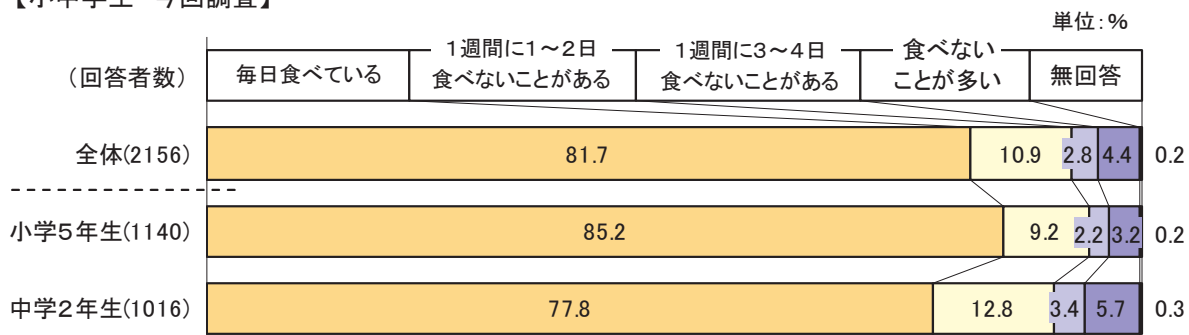


朝食を食べているか

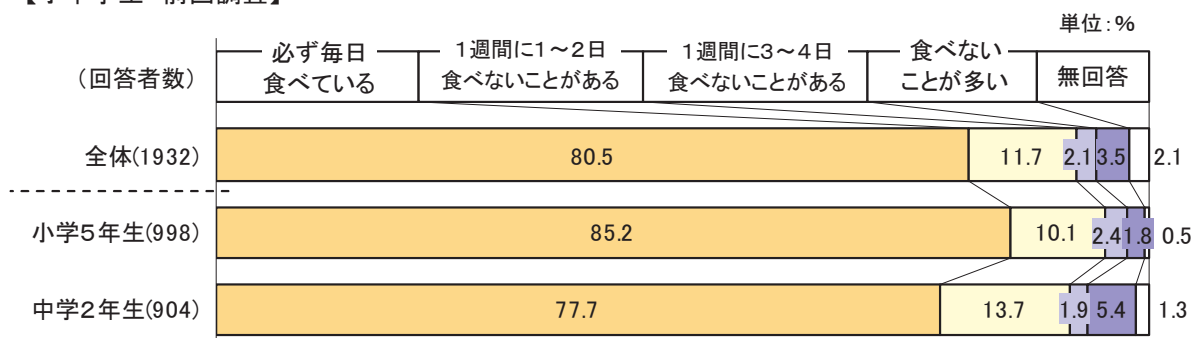
【市民】



【小中学生 今回調査】



【小中学生 前回調査】



■「朝食を毎日食べている」…小中学生 起床及び就寝時間との関連

起床時間と朝食の習慣をみると、起床時間が遅くなるにつれ「毎日食べている」割合は少なくなり、午前8時過ぎの起床では53.3%にとどまります。

就寝時間と朝食の習慣をみると、就寝時間が遅くなるにつれ「毎日食べている」割合は少なくなり、午前0時過ぎの就寝では51.7%にとどまります。

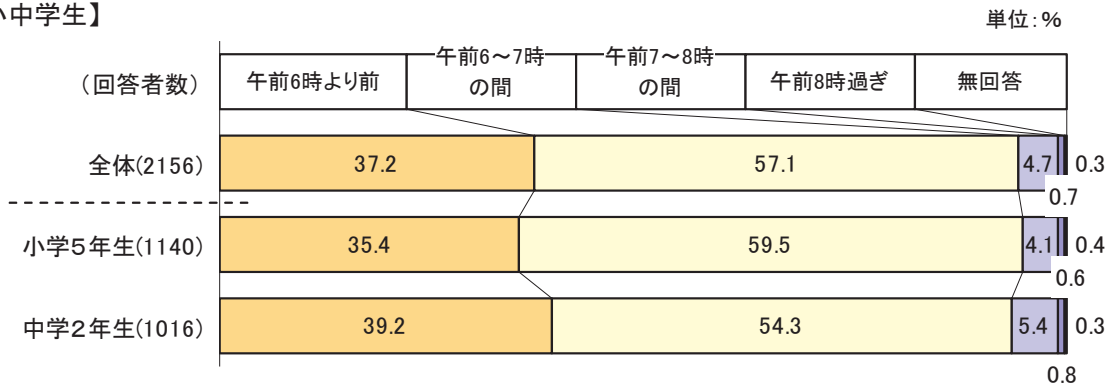
【前回調査との比較】

平日の起床時間・就寝時間について、小学5年生・中学2年生ともに、前回調査との間に大きな変化は見られません。

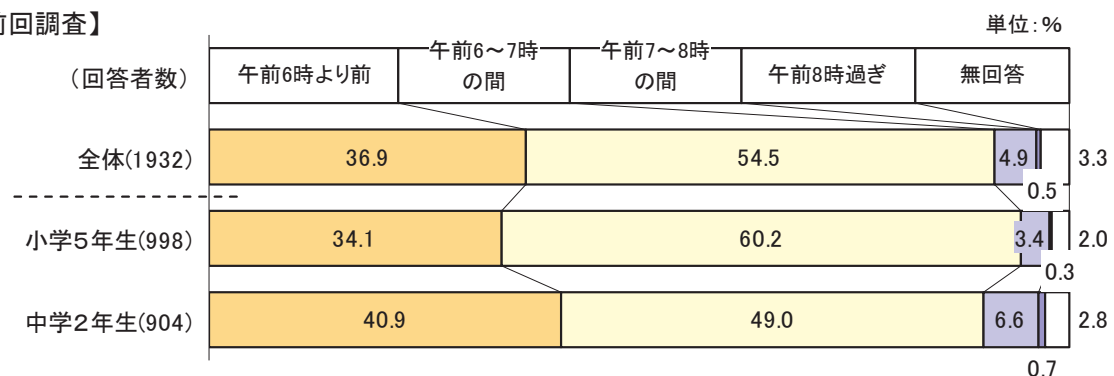
平日の起床時間は、「午前6～7時の間」が最も多く、小学5年生で59.5%、中学2年生で54.3%となっています。

平日の起床時間

【小中学生】



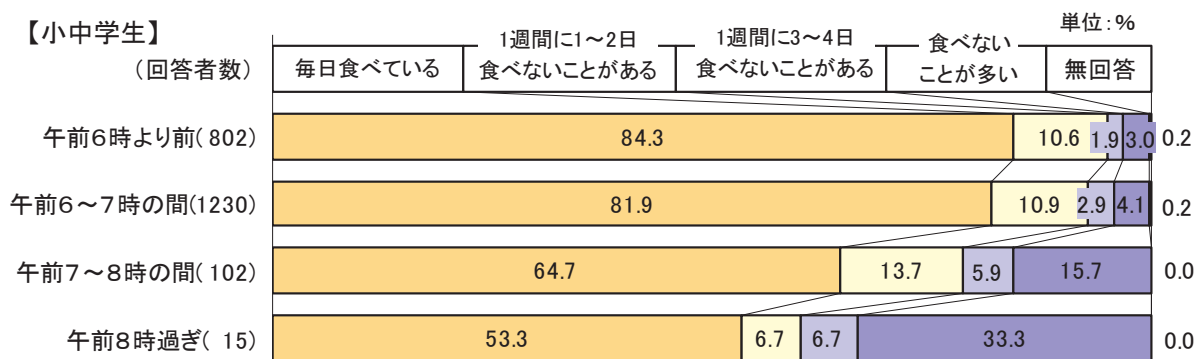
【前回調査】



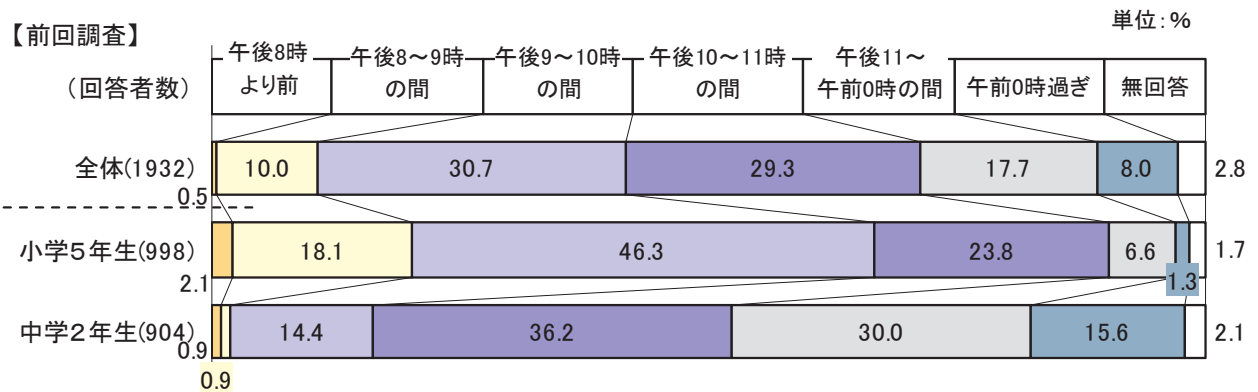
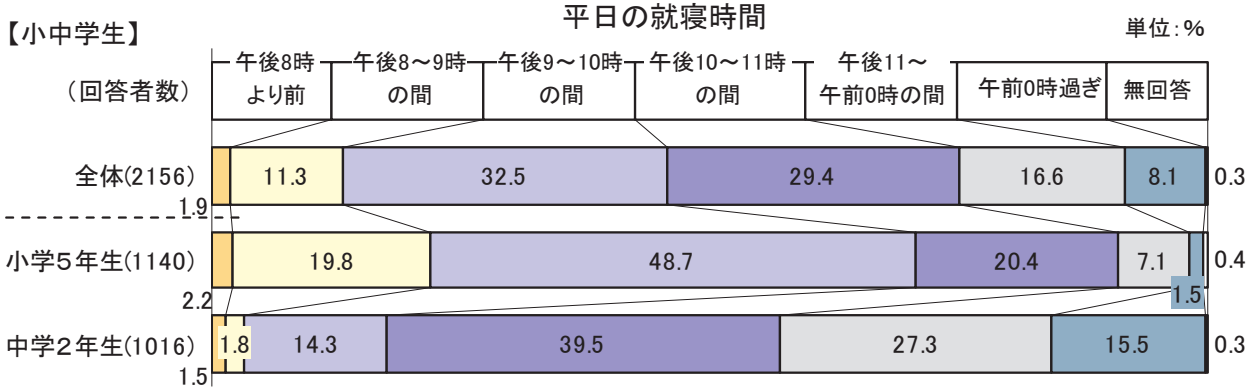
◆ 起床時間と朝食の欠食の関係 ◆

「毎日食べている」の割合は、午前7時～8時以降の起床を境に減少し、午前8時過ぎの起床では、「食べないことが多い」との回答が33%と急増しています。

【小中学生】

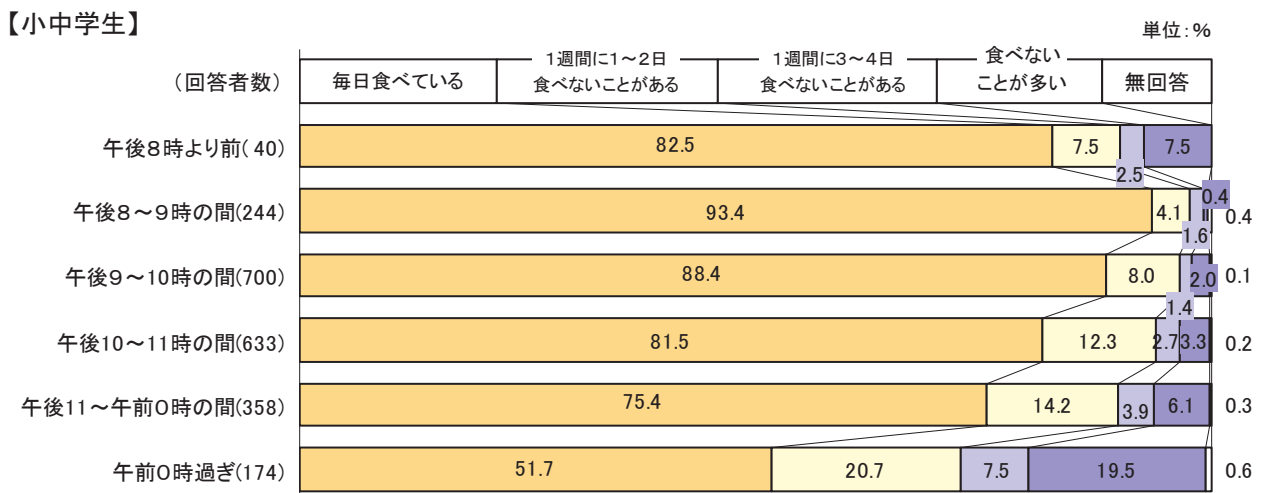


平日の就寝時間は、小学5年生では「午後9時～10時の間」(48.7%)が最も多くなっています。中学2年生では「午後10時～11時の間」(39.5%)が最も多く、午後10時以降に就寝する生徒は80%を超えています。



◆ 就寝時間と朝食の欠食の関係 ◆

「毎日食べている」の割合は、午後10時以降の就寝を境に徐々に減少し、午前0時過ぎの就寝では、約半数にまで減少してしまいます。



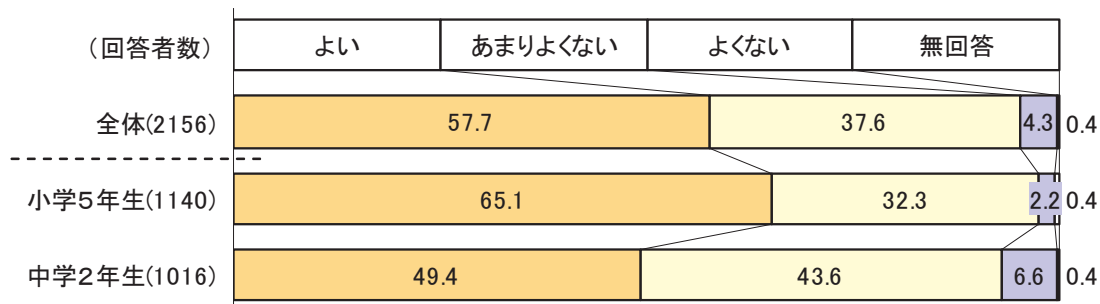
■現在の食生活について、中学生は約半数が「よくない」と考えている

自分の食生活については、小学5年生の65.1%が「よい」と回答しています。中学2年生では、「よい」(49.4%)に対し、「あまりよくない」(43.6%)と「よくない」(6.6%)をあわせると50.2%、約半数の生徒が自分の食生活を「よくない」と考えています。

自分の今の食生活をどう思うか

【小中学生】

単位：%



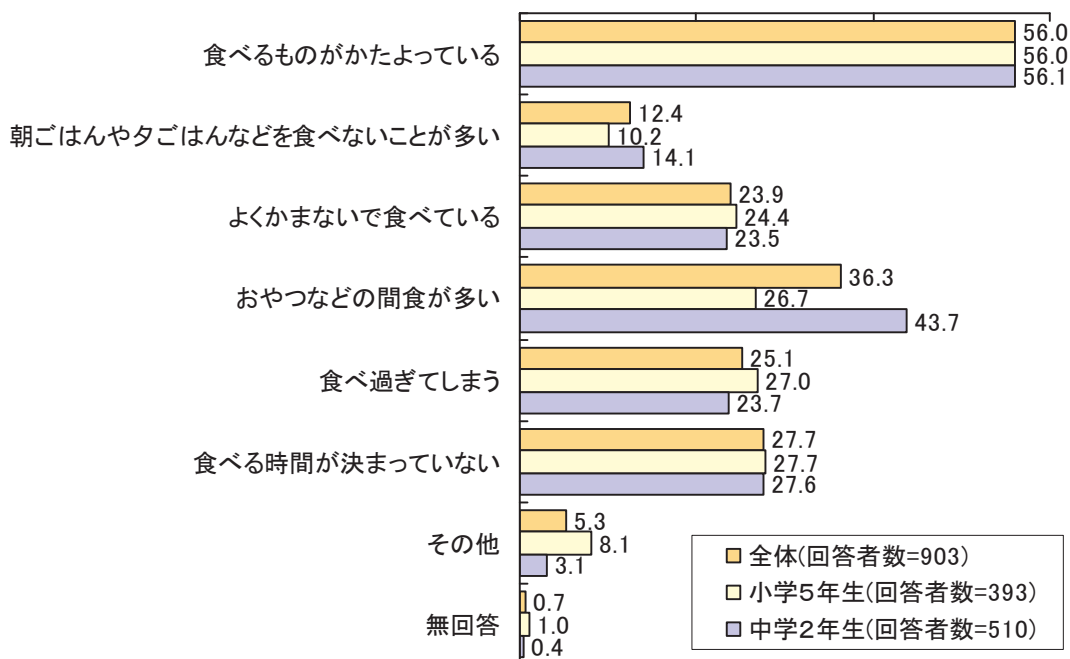
■「よくない」理由で最も多いのが、「食べるものがかたよっている」

食生活がよくない理由としては、小学5年生・中学2年生ともに「食べるものがかたよっている」が50%台で最も多く、中学2年生では「おやつなどの間食が多い」との回答が小学5年生を大きく上回っています。

食生活がよくない理由（複数回答）

【小中学生】

0 20 40 60 %

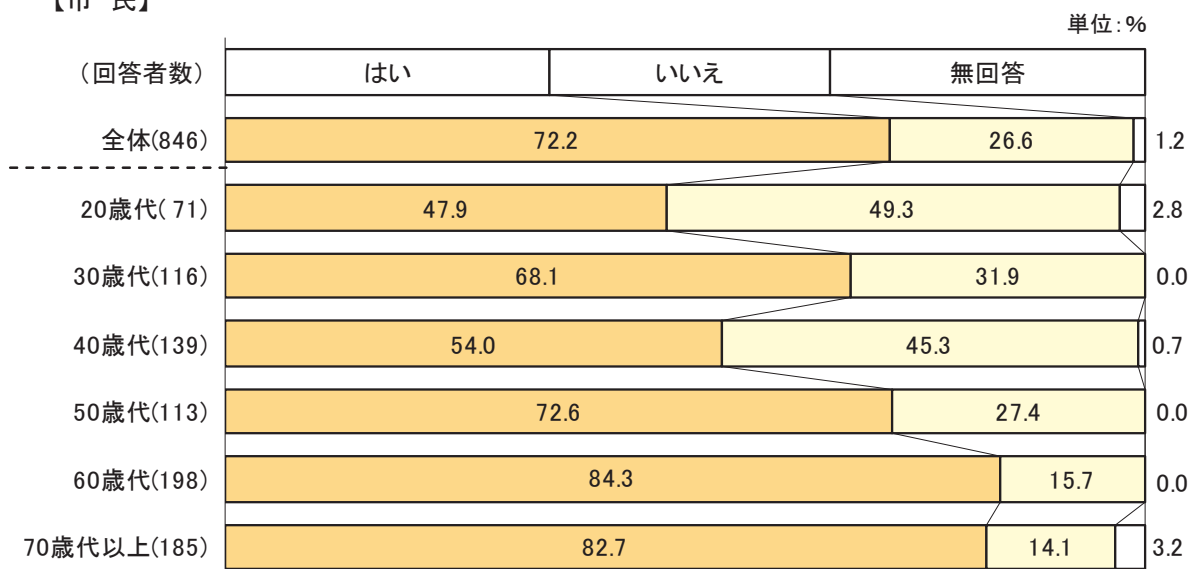


■栄養バランスのとれた食事を1日2回以上は70%台

栄養バランスのとれた食事を1日2回以上心がけているかでは、「はい」が70%以上、年代別では、年代が高くなるほど、バランスのとれた食事を心がけている人の割合が多くなる傾向にあります。

栄養バランスのとれた食事を1日2回以上心がけているか

【市民】

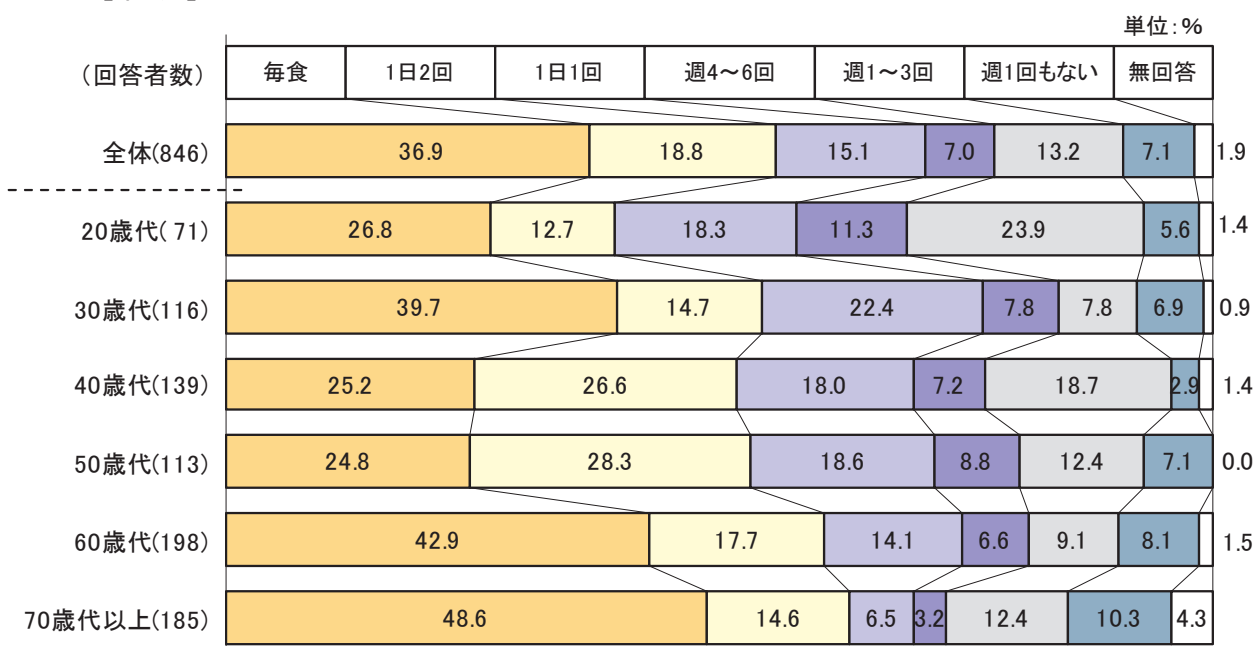


■家族や友人と一緒に食事をする頻度は20歳代と70歳代の一部で少ない傾向

家族や友人と一緒に食事をする頻度は、20歳代でやや少ない傾向にあり、子育て世代である30歳代や60歳代以上の高齢者層で多い傾向にあります。70歳代以上では、「毎食」の割合が最も多い一方で、「週1回もない」割合も他の年代に比べ多くなっています。

【市民】

家族や友人と一緒に食事をする頻度



■ 「米」「野菜類」「魚類」「肉類」をバランスよく

「米」や「野菜類」は、1日2回以上とっている割合が高く、いずれも60%を超えています。

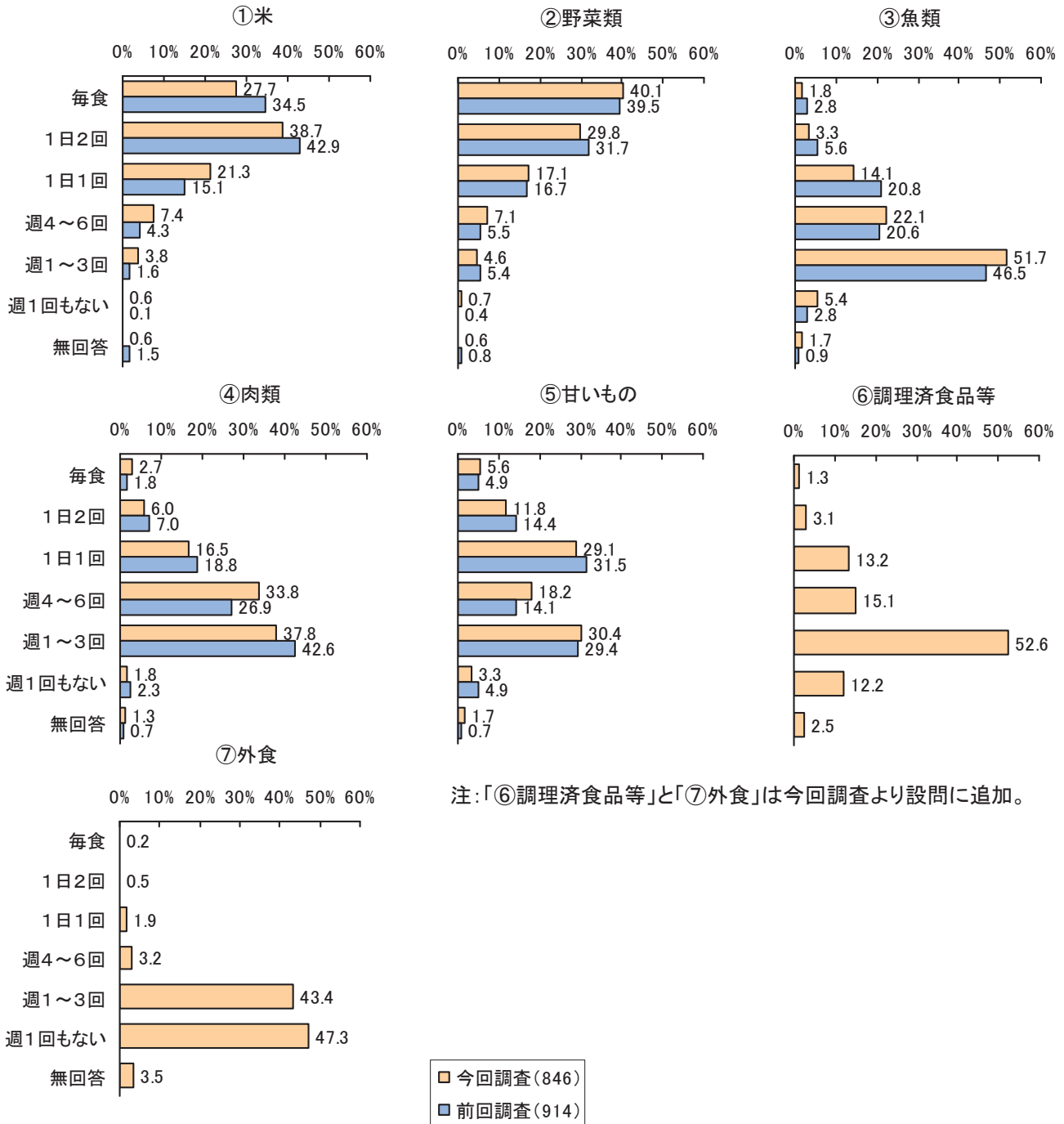
【前回調査との比較】

前回調査に比べ、米や魚類の頻度が減少し、肉類の頻度が増加しています。

食品をとる頻度

(回答者数=846)

【市民】



注:「⑥調理済食品等」と「⑦外食」は今回調査より設問に追加。

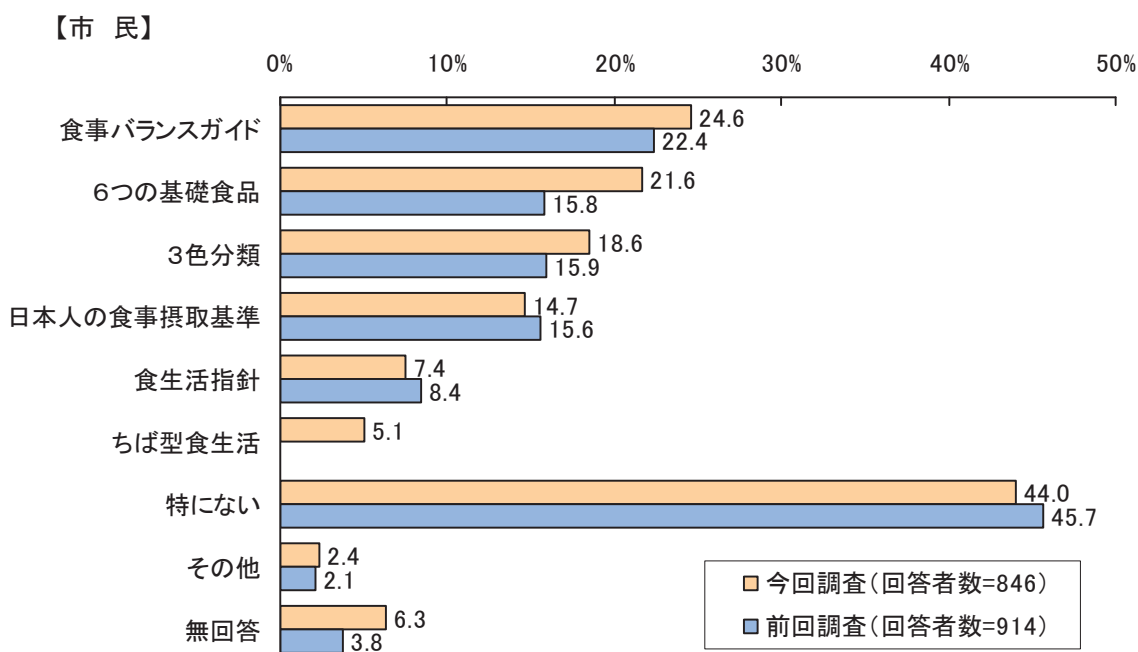
■食生活で参考になっている指針は「特にない」が半数近い

食生活で参考になっている指針では、「特にない」が44.0%で最も多くなっていますが、参考になっているものとして「食事バランスガイド」(24.6%)、「6つの基礎食品」(21.6%)、「3色分類」(18.6%)などが上位にあげられています。

【前回調査との比較】

今回調査より「ちば型食生活」の選択肢が追加されたため単純な比較はできませんが、「6つの基礎食品」や「3色分類」「食事バランスガイド」については、今回調査の結果が前回調査を上回っています。

健全な食生活を実践するため参考になっているもの（複数回答）

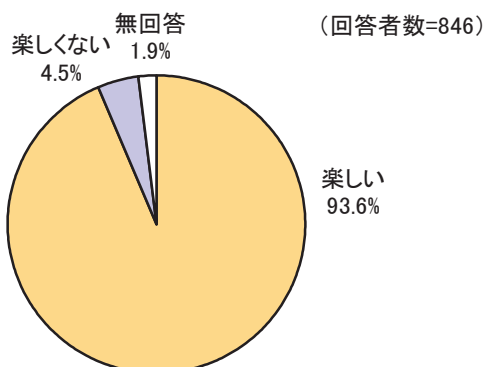


■食事が「楽しい」90%超え

食事が楽しいかどうかについては、「楽しい」が93.6%と90%以上を占めています。

食事が楽しいか

【市民】

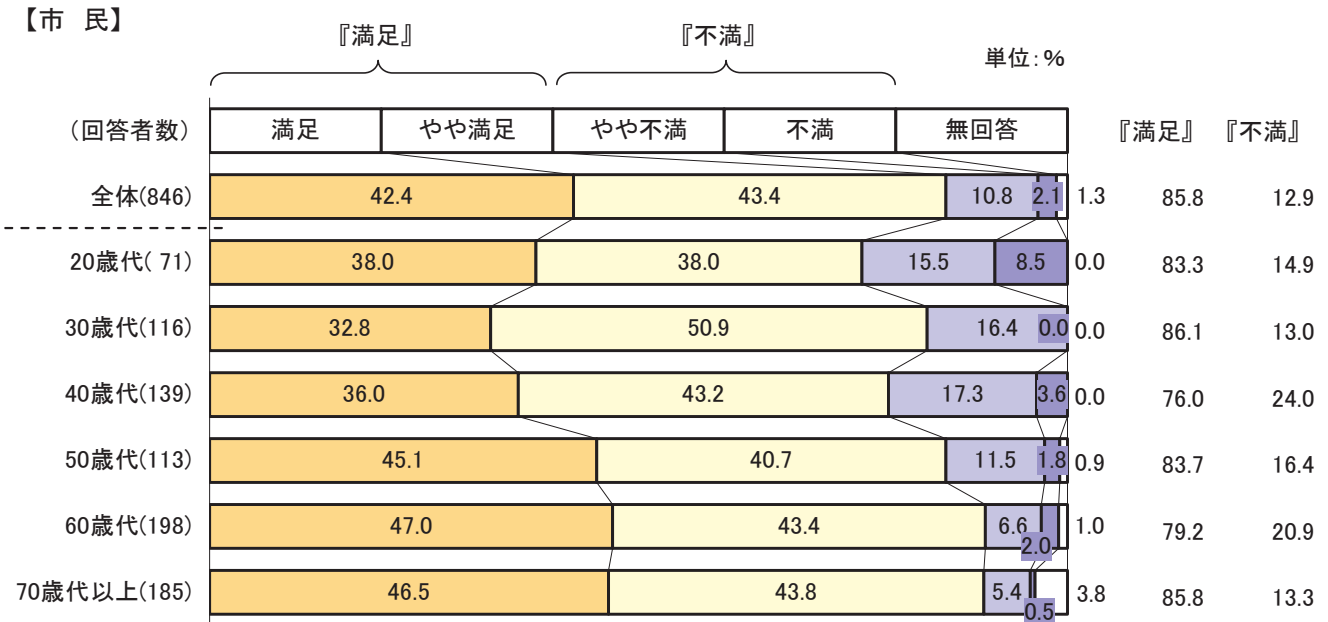


■20 歳代、40 歳代で『不満』が 20% 台

現在の食生活の満足度については、「満足」(42.4%)と「やや満足」(43.4%)をあわせた『満足』が 85.8%と 80%以上を占めています。

年代別では、20 歳代と 40 歳代で「不満」「やや不満」を合わせた『不満』が 20% 台と他の年代に比べやや多くなっています。

現在の食生活の満足度

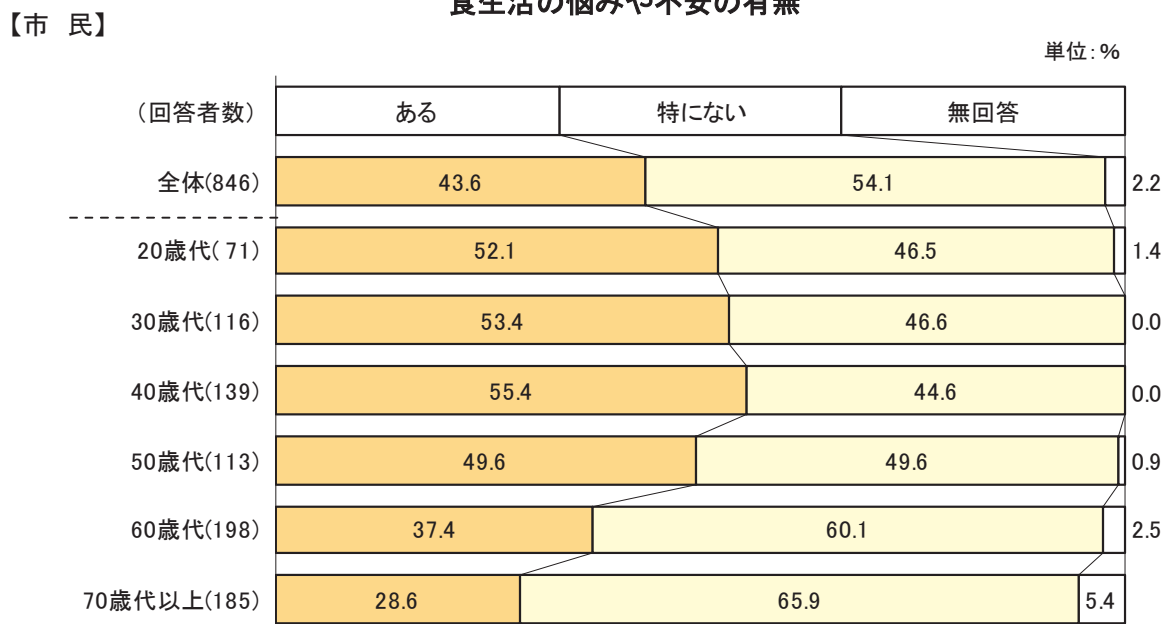


■20 歳代から 40 歳代で悩み、不安が 50% 以上

食生活の悩みや不安が「ある」とする人は、43.6%となっています。

年代別では、20~40 歳代の若い世代で、悩みや不安が「ある」との回答が半数を超えています。

食生活の悩みや不安の有無

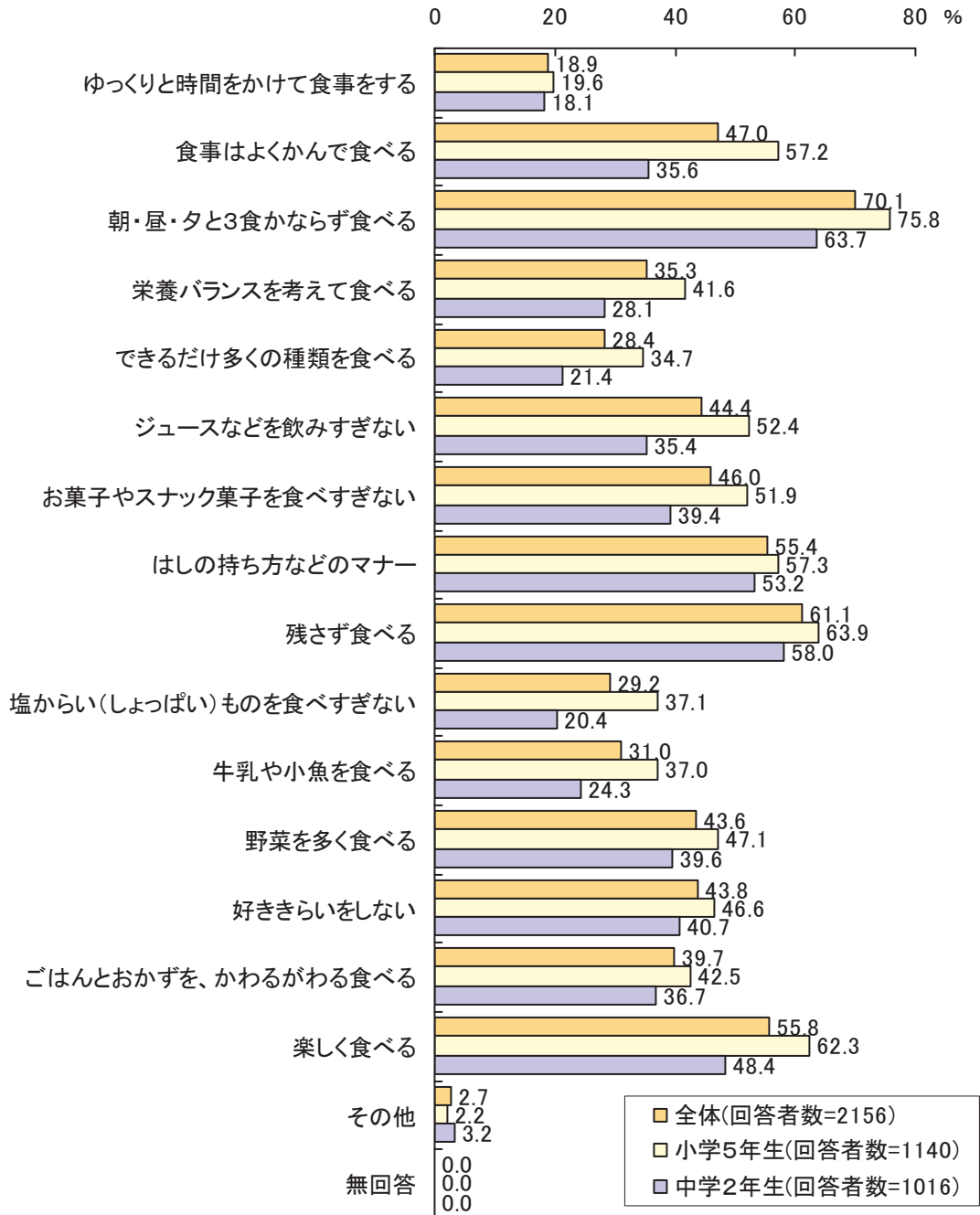


■「朝・昼・夕と3食かならず食べる」小学5年生 75.8%

「朝・昼・夕と3食かならず食べる」が最も多くなっています。次いで、小学5年生では、「残さず食べる」(63.9%)、「楽しく食べる」(62.3%)、中学2年生では、「残さず食べる」(58.0%)、「はしの持ち方などのマナー」(53.2%)の順となっています。

食事をするとき気をつけていること（複数回答）

【小中学生】



(3) 学校給食について

■ 「給食が好き」 60%以上

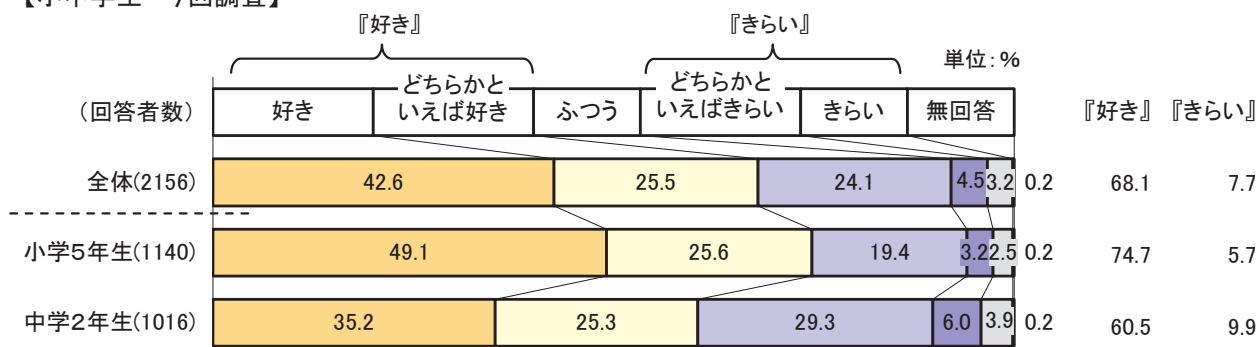
学校給食については、小学5年生・中学2年生ともに「好き」が最も多く、「どちらかといえば好き」と合わせた『好き』は、小学5年生で70%以上、中学2年生で60%以上を占めています。

【前回調査との比較】

小学5年生・中学2年生ともに、『好き』の割合は今回調査の結果が前回調査を上回っています。中学2年生で「好き」の割合が特に伸びており、給食が好きな児童・生徒が増えていることがわかります。

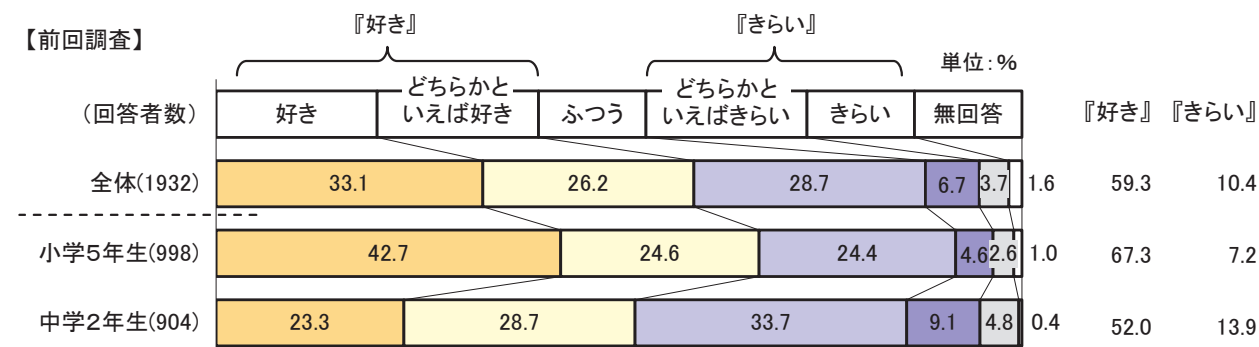
学校給食が好きか

【小中学生 今回調査】



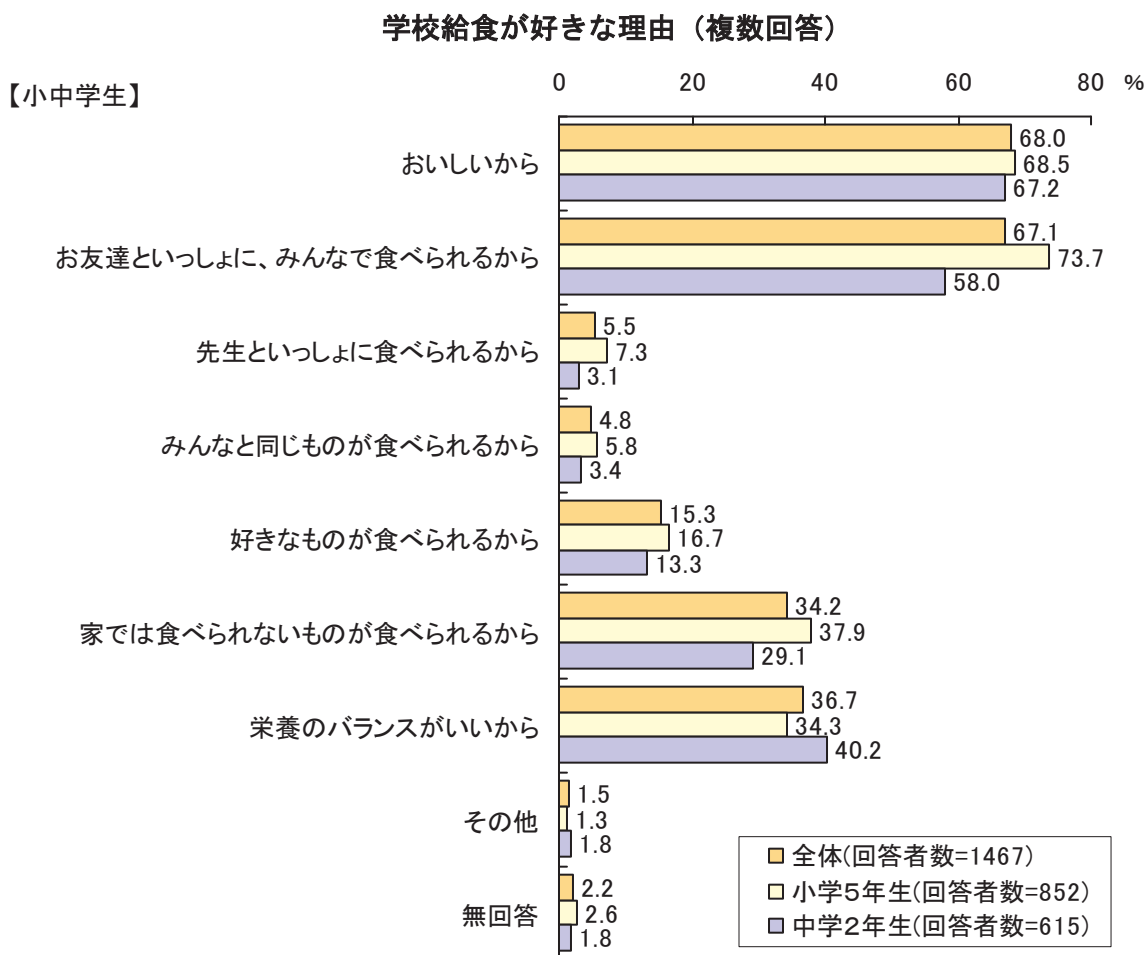
【小中学生 前回調査】

【前回調査】



■小学5年生 「お友達といっしょに、みんなで食べられるから」

給食が好きな理由としては、小学5年生では「お友達といっしょに、みんなで食べられるから」(73.7%)が、また中学2年生では「おいしいから」(67.2%)が最も多く、次いで「お友達といっしょに、みんなで食べられるから」(58.0%)、「栄養バランスがいいから」(40.2%)の順となっています。



(4) あなたの生活や体について

■メタボリックシンドロームの認知度は高い

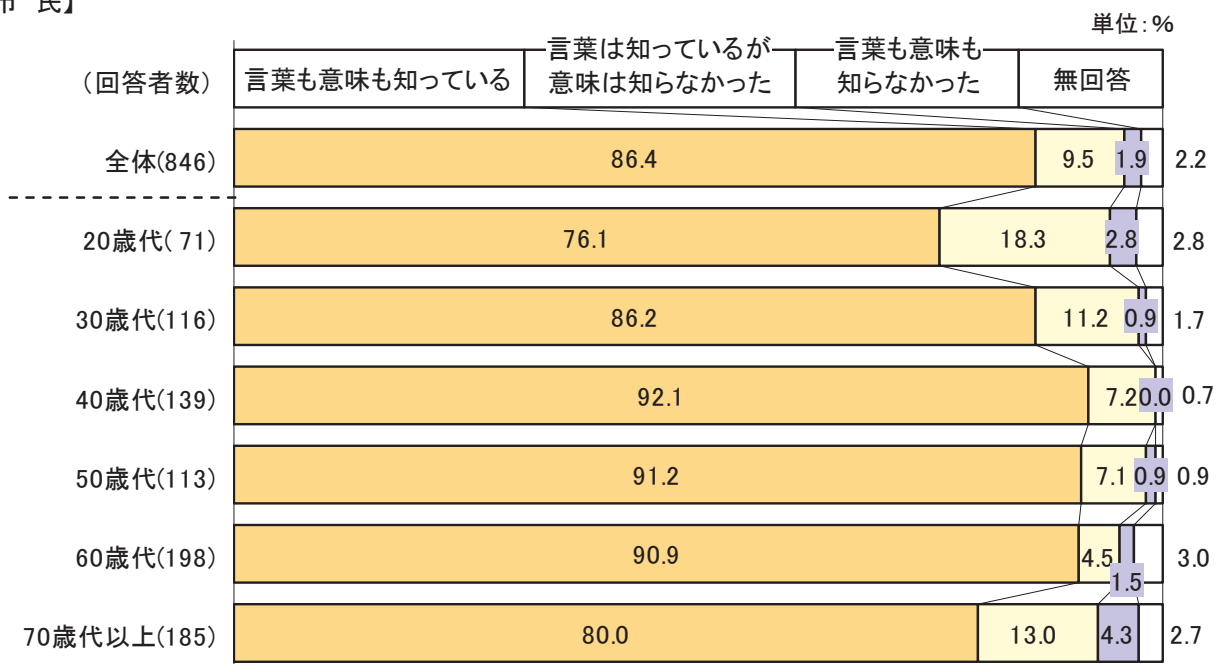
メタボリックシンドロームの認知度は高く、「言葉も意味も知らなかった」という人は、わずかに1.9%となっています。

メタボリックシンドロームとは

内臓脂肪型肥満に加えて
高血糖・高血圧・脂質異常の
いずれか2つ以上をあわせもった
状態を言います。

メタボリックシンドロームの認知度

【市民】



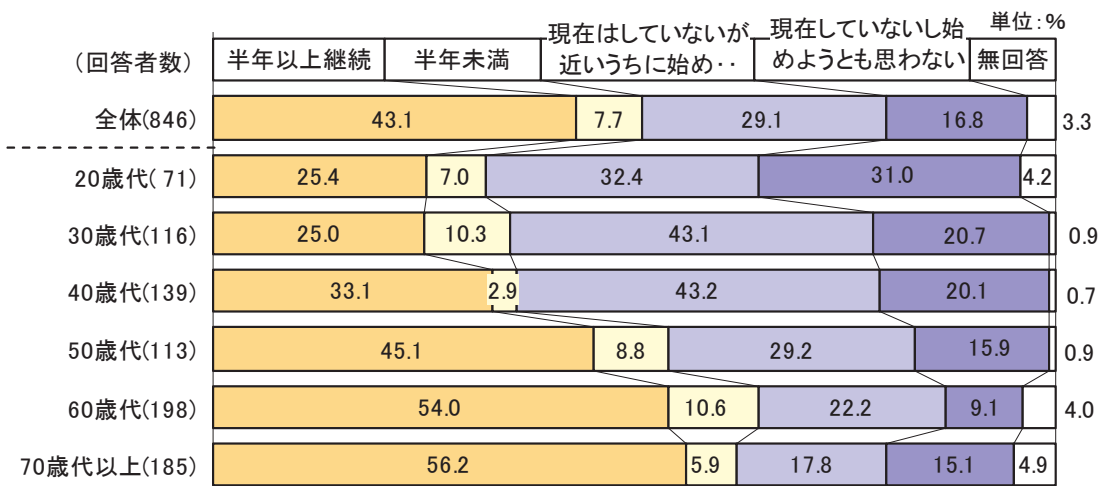
■メタボリックシンドローム等への対策実施 43.1%

メタボリックシンドロームや生活習慣病の予防・改善のための対策について「半年以上継続している」の回答が43.1%と最も多く、「半年未満である」(7.7%)、「現在はしていないが、近いうちに始めようと思っている」(29.1%)とあわせ、予防や改善の意識を持っている人の割合は、80%近くとなっています。

年代別でみると、実際に対策をしている人の割合は、50歳代以上で半数を超え多くなっています。

メタボリックシンドローム等への対策

【市民】



■「ほぼ満足している」42.7%

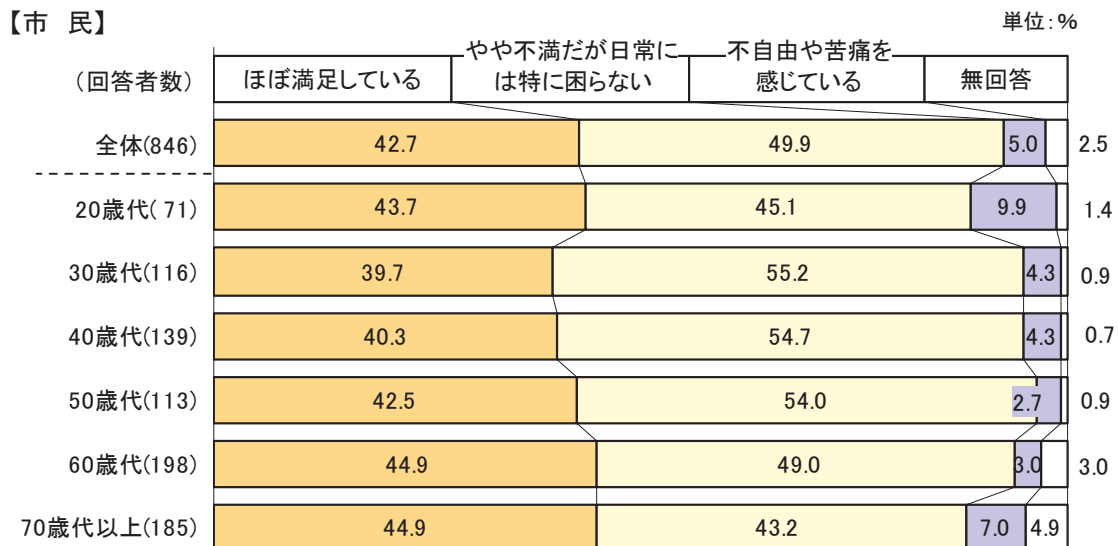
歯や口の健康状態については、「ほぼ満足している」が42.7%となっています。

年代別では、70歳代以上を除きすべての年代で「やや不満だが日常には特に困らない」との回答が「ほぼ満足している」の割合を上回っています。

また、20歳代では「不自由や苦痛を感じている」との回答が約10%と、他の年代に比べ歯や口の健康状態に課題を抱えている人が多いことがうかがえます。

歯や口の健康状態

【市民】

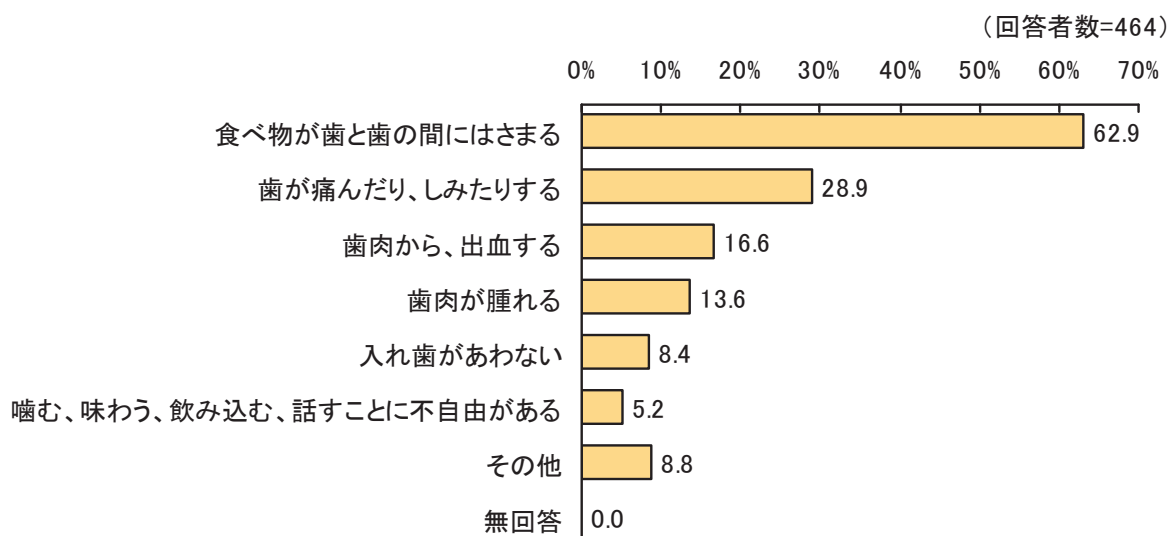


■「食べ物が歯と歯の間にはさまる」全世代で多い

歯や口の健康状態に不満を感じている人の具体的な症状としては、「食べ物が歯と歯の間にはさまる」が最も多くあげられています。

歯や口の健康状態に不満を感じている人の具体的な症状（複数回答）

【市民】



単位：%

	回答者数(人)	食べ物が歯と歯の間にはさまる	歯が痛んだり、しみたりする	歯肉から、出血する	歯肉が腫れる	入れ歯があわない	噛む、味わう、飲み込む、話すことに不自由がある	その他	無回答	
		割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	
全体	464	62.9	28.9	16.6	13.6	8.4	5.2	8.8	0.0	
年代	20歳代	39	53.8	30.8	25.6	5.1	0.0	5.1	7.7	0.0
	30歳代	69	43.5	37.7	23.2	13.0	0.0	1.4	15.9	0.0
	40歳代	82	61.0	35.4	22.0	13.4	0.0	3.7	8.5	0.0
	50歳代	64	75.0	32.8	10.9	9.4	3.1	0.0	9.4	0.0
	60歳代	103	66.0	25.2	14.6	20.4	12.6	7.8	9.7	0.0
	70歳代以上	93	68.8	19.4	11.8	15.1	24.7	8.6	2.2	0.0

(5) 食の安全について

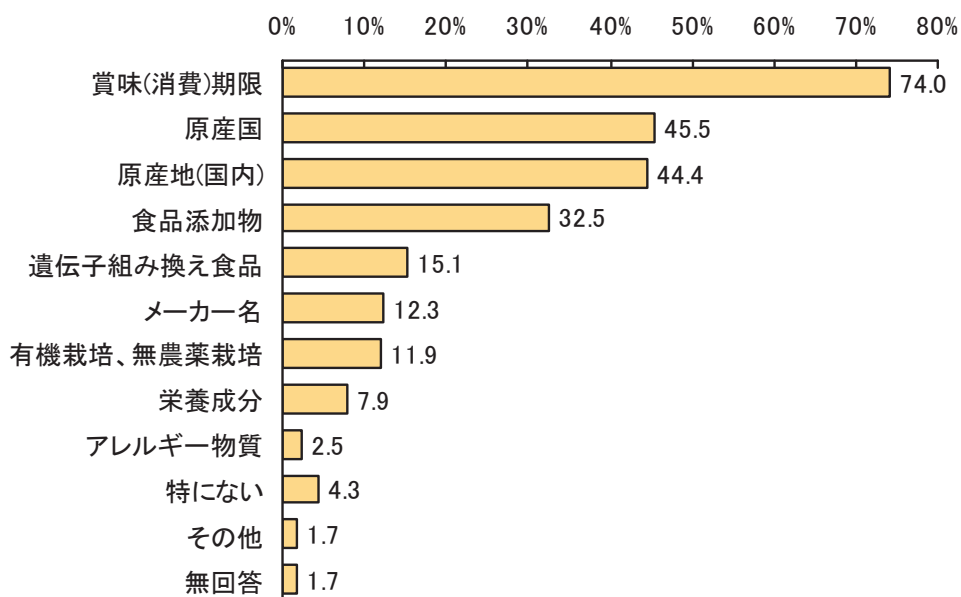
■気になる「賞味（消費）期限」

食品選びで気をつけていることでは、「賞味（消費）期限」が74.0%で最も多く、次いで「原産国」、「原産地（国内）」、「食品添加物」の順となっています。

食品選びで気をつけていること（複数回答）

【市民】

（回答者数=846）



■栄養成分表示を「参考にしている」は54.9%

食品購入時に栄養成分表示を参考にしている人は、「参考にしている」(16.8%)と「ときどき参考にしている」(38.1%)をあわせて54.9%となっています。

【前回調査との比較】

食品購入時に栄養成分表示を『参考にしている』割合は、前回調査から横ばいとなっています。

食品購入時に栄養成分表示を参考にしているか

【市民】

(回答者数)	『参考にしている』		『参考にしていない』		無回答	単位: %	『参考にしている』	『参考にしていない』
	参考にしている	ときどき参考	あまり参考にしていない	参考にしていない				
今回調査(846)	16.8	38.1	27.1	16.1	2.0	54.9	43.2	
前回調査(914)	13.9	40.0	32.4	10.8	2.8	53.9	43.2	

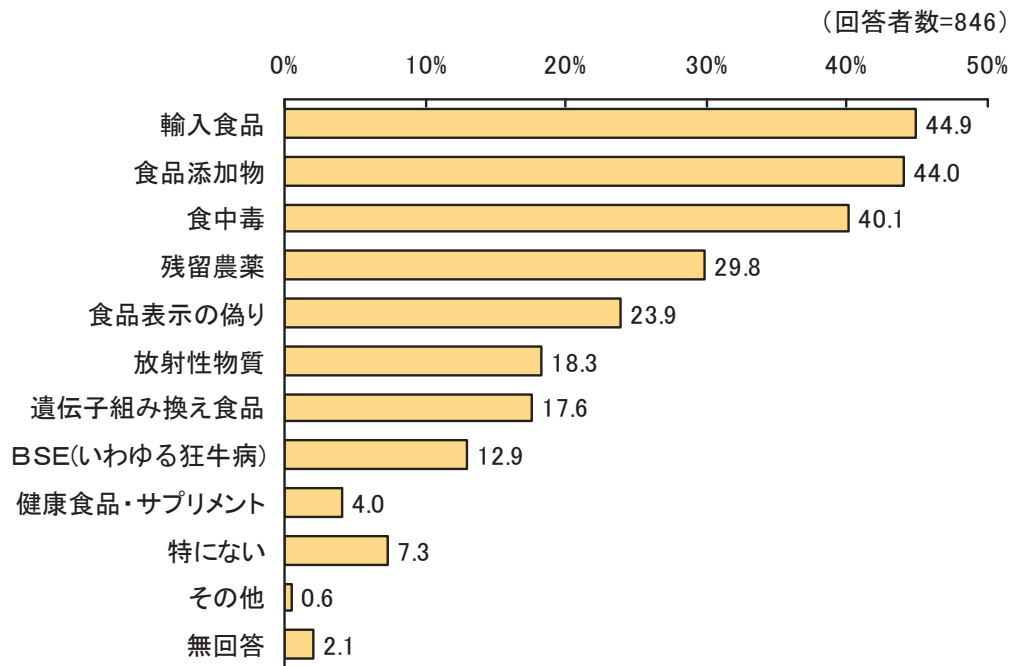
注: 前回調査の「参考にしている」は「参考にすることが多い」、「参考にしていない」は「全く参考にしていない」である。

■食の安全に関して不安に思うことは、「輸入食品」

食の安全に関して不安に思うことでは、「輸入食品」(44.9%)が最も多く、次いで「食品添加物」(44.0%)、「食中毒」(40.1%)の順となっています。

食の安全に関して不安に思うこと（複数回答）

【市民】



(6) 地場産物や郷土料理について

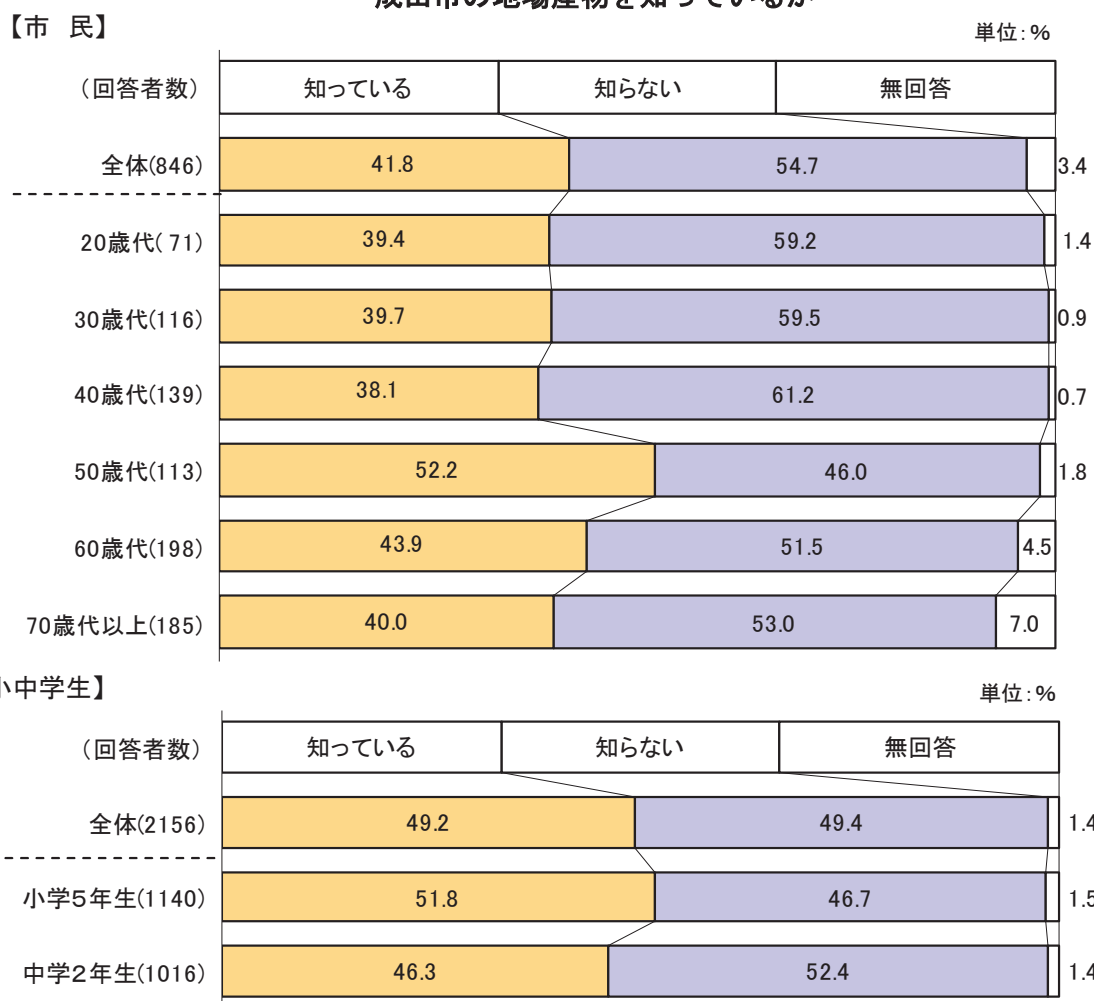
■地場産物は「さつまいも」が第1位

地場産物を知っている人は、41.8%となっています。

年代別では、50歳代で知っている人の割合が多くなっています。

具体的な地場産物としては、「さつまいも」、「うなぎ」、「落花生」などがあげられています。

成田市の地場産物を知っているか



<具体的な地場産物>

順位	内容	人
第1位	さつまいも	207
第2位	うなぎ	136
第3位	落花生	106
第4位	米	65
第5位	鉄砲漬	53
第6位	ようかん	39
第7位	にんじん	27
第8位	れんこん	25
第9位	すいか	20

順位	内容	人
第10位	漬物（奈良漬、きんぼう漬、大根赤漬）	19
第11位	栗	17
第12位	川魚・小魚（黒べら・どじょう）	9
第13位	大根	8
第14位	ごぼう（大浦ごぼう）	7
第15位	豚肉	6
その他	梨、日本酒、いちご、瓜、粟、しょうゆ 等	

■郷土料理は「うなぎ料理」が第1位

郷土料理を知っている人は、15.7%となっています。

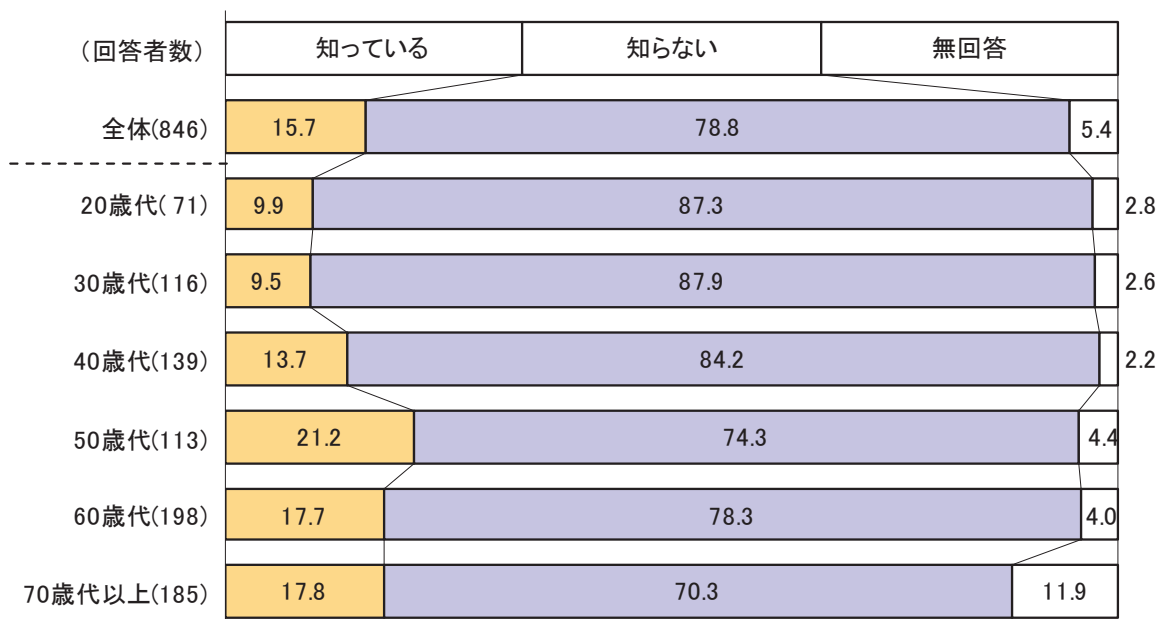
年代別では、地場産物と同様に50歳代で知っている人の割合が多くなっています。

具体的な郷土料理としては、「うなぎ料理」、「鉄砲漬け」、「太巻き寿司、海苔巻き等」などがあげられています。

成田市の郷土料理を知っているか

【市民】

単位：%



<具体的な郷土料理>

順位	内容	人
第1位	うなぎ料理（うなぎの蒲焼き、うなぎ重、うなぎ丼）	80
第2位	鉄砲漬け	31
第3位	太巻き寿司、海苔巻き、飾り太巻き、祭り寿司	29
第4位	川魚料理（鯉の甘露煮、煮付）	18
第5位	落花生味噌	8
第5位	ようかん・栗ようかん	8
第7位	大浦ごぼうの煮付	6
第7位	漬物	6
第9位	佃煮	5
第10位	ジンギスカン	3
その他	雑魚煮、坊入 等	

(7) 地産地消・農業体験について

■地産地消の認知度は高まっている

「地産地消」の認知度は、「知っており、実践（地元産のものを購入する等）している」が47.5%、「知っているが、実践はしていない」が37.5%となっており、「知らない」との回答は10%程度と少なくなっています。

【前回調査との比較】

前回調査に比べ「知っており実践している」との回答が増加するなど、「地産地消」の認知度は高まっています。

地産地消の考えについて

【市民】

単位：%

(回答者数)	知っており実践している	知っているが実践していない	知らない	無回答
今回調査(846)	47.5	37.5	11.6	3.4
前回調査(914)	41.4	39.7	15.0	3.9

地場産物で安心・安全なものであれば、少し価格が高めでも購入するか

【市民】

単位：%

(回答者数)	購入する	価格が安い方を購入	無回答
全体(846)	64.8	31.7	3.5
20歳代(71)	43.7	53.5	2.8
30歳代(116)	56.0	42.2	1.7
40歳代(139)	63.3	36.0	0.7
50歳代(113)	70.8	26.5	2.7
60歳代(198)	67.7	28.8	3.5
70歳代以上(185)	73.5	19.5	7.0

■農産物直売所は80%以上が利用している

農産物直売所の利用状況では、「よく利用する」(30.9%)、「ときどき利用する」(51.8%)をあわせ、80%以上の人が農産物直売所を『利用する』としています。

【前回調査との比較】

前回調査に比べ「よく利用する」との回答が増加し、『利用する』割合は80%以上となっています。

農産物直売所の利用経験

【市民】

(回答者数)	『利用する』				『利用する』	単位:%
	よく利用する	ときどき利用する	利用したことがない	無回答		
今回調査(846)	30.9	51.8	14.7	2.7	82.7	
前回調査(914)	22.3	56.8	17.0	3.9	79.1	



■地元産の購入は70%以上の人が心がけている

地元産の購入については、「いつも心がけている」(21.5%)、「ときどき心がけている」(50.9%)をあわせ、70%以上の人が地元産の購入を『心がけている』としています。

【前回調査との比較】

前回調査に比べ「いつも心がけている」との回答が増加していますが、「気にしていない」割合も増加しています。

地元産を購入するように心がけているか

【市民】

(回答者数)	『心がけている』				『心がけている』	単位:%
	いつも心がけている	ときどき心がけている	気にしていない	無回答		
今回調査(846)	21.5	50.9	24.1	3.4	72.4	
前回調査(914)	17.0	56.7	21.7	4.7	73.7	

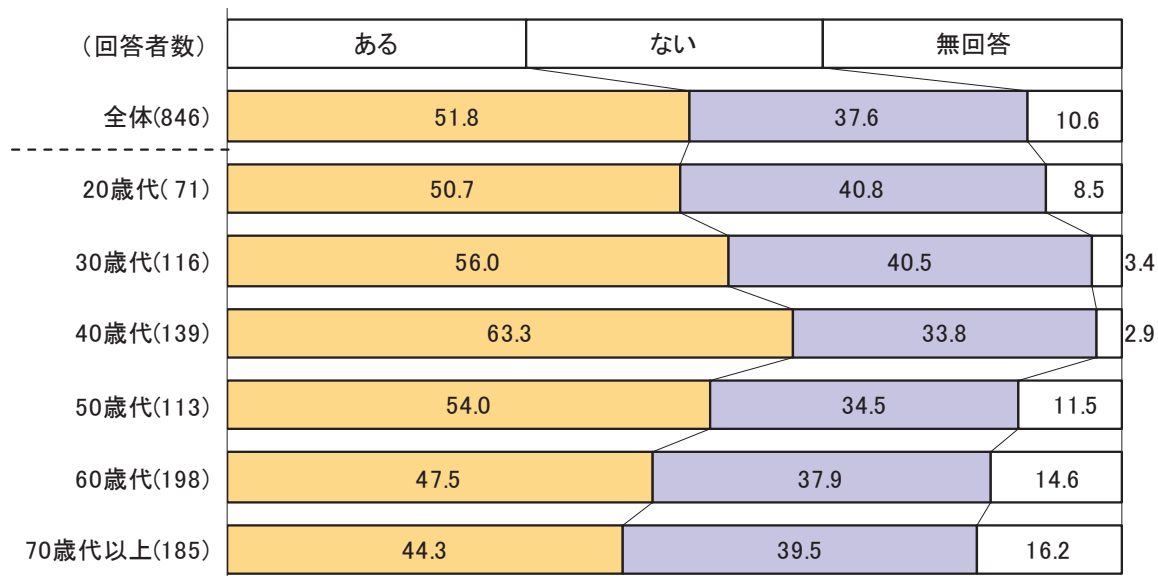
■農業体験 約半数が「ある」

年代別では、農業体験をしたことのある人は50歳代以下ではいずれの世代も50%を超えています。特に40歳代に多くなっています。

農業体験の経験

【市民】

単位：%



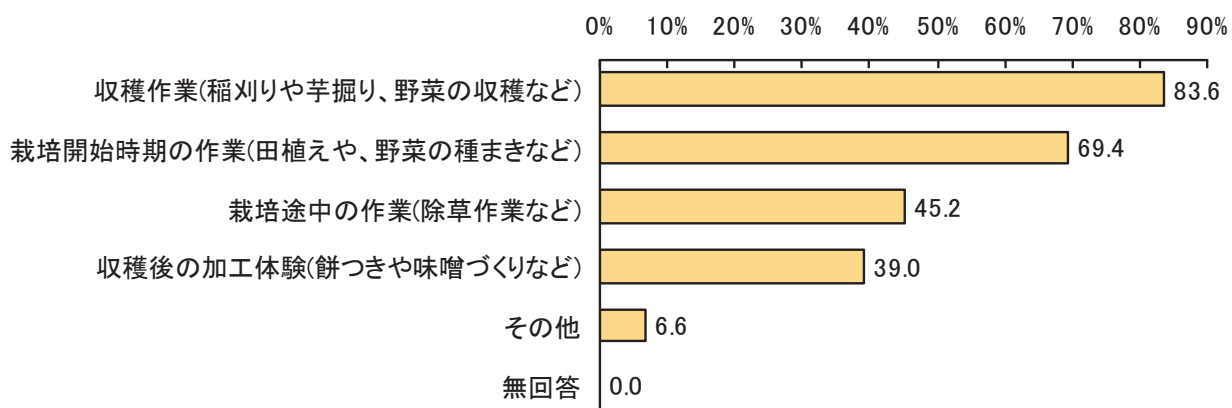
■体験したことがあるのは「収穫作業の体験」や「栽培開始時期の作業の体験」

農業体験をしたことがある人に具体的な内容をたずねたところ、「収穫作業の体験（稲刈りや芋掘り、野菜の収穫など）」が83.6%で最も多く、次いで「栽培開始時期の作業の体験（田植えや野菜の種まきなど）」（69.4%）、「栽培途中の作業の体験（除草作業など）」（45.2%）の順となっています。

農業体験の具体的な内容（複数回答）

【市民】

（回答者数=438）



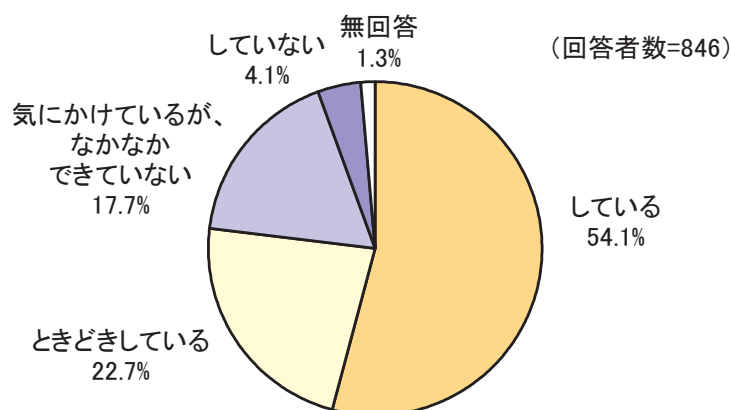
(8) 環境への理解について

■食べ残しを減らす努力を『している』人は全体の70%以上

食べ残しを減らす努力をしている人は、「している」(54.1%)、「ときどきしている」(22.7%)をあわせて76.8%と、全体の70%以上を占めています。

食べ残しを減らす努力をしているか

【市民】

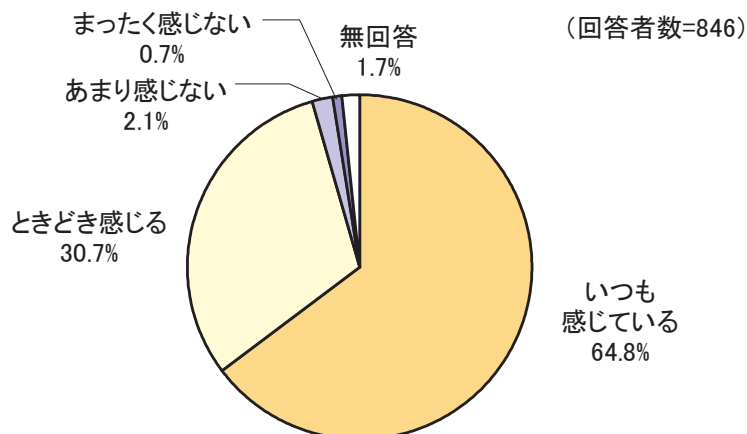


■食べ残しや廃棄をもったいないと『感じる』人は全体の90%以上

食べ残しや廃棄についてもったいないと感じているかどうかについては「いつも感じている」(64.8%)、「ときどき感じる」(30.7%)をあわせて95.5%と90%を超えています。

食べ残しや廃棄についてもったいないと感じているか

【市民】



(9) 市に期待することについて

■最も多いのは、「地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する」

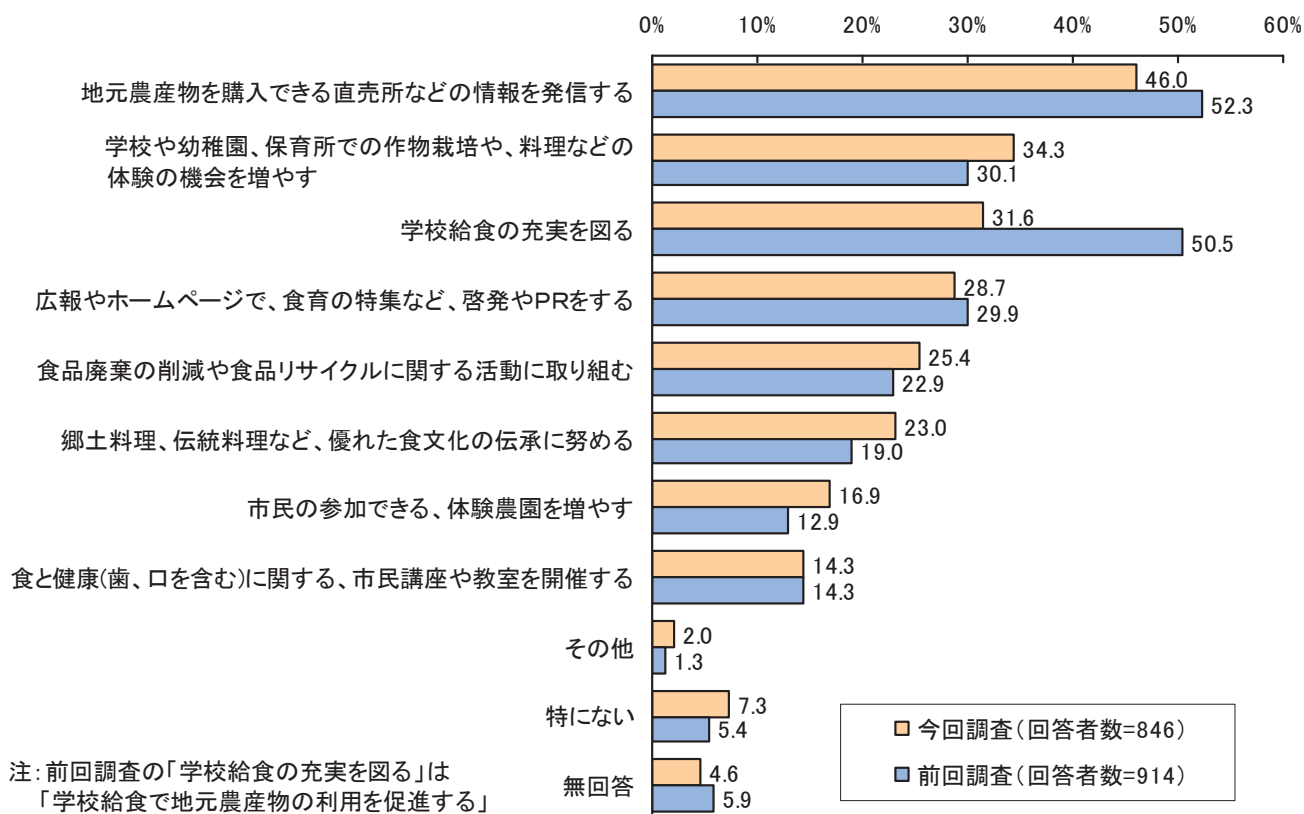
市に期待する食育に関する施策では「地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する」(46.0%)が最も多く、次いで「学校や幼稚園、保育所での作物栽培や、料理などの体験の機会を増やす」(34.3%)が主な回答となっています。

【前回調査との比較】

前回調査と選択肢が異なるため単純な比較はできませんが「学校や幼稚園、保育所での作物栽培や、料理などの体験の機会を増やす」や「郷土料理、伝統料理など優れた食文化の伝承に努める」で回答がやや増加しています。

食育に関して市に期待すること（複数回答）

【市民】



3 ワークショップの開催

アンケート調査により、若い世代の食に関する課題が明らかになったことから、10歳代後半から20歳代前半の若い世代の食についての意識を把握するため、市内大学のご協力を得てワークショップを開催しました。



項目	内容
開催日時	2017(平成29)年10月21日(土)10時00分~12時00分
開催場所	国際医療福祉大学 2階 フリースペース
参加者	国際医療福祉大学の学生 7名 事務局 5名 オブザーバー 2名
テーマ	「朝ごはん食べてる?若い人こそ朝ごはんを!」 「あなたはひとり派?みんな派?孤食と共食を考えよう!」
内容	・参加者は2つのグループに分かれ、それぞれのテーマについて、KJ法 ^{※1} を用いて話し合い、メリット・デメリットや具体的な解決方法などについて話し合いました。 ・最後に互いのグループで出された意見に対し、ドット投票 ^{※2} を行い、各グループの内容を確認してもらいました。 ◆意見の詳細については、P51・P56のコラムで紹介しています◆

※1 KJ法

ふせんにアイデアを書き出し、似た内容のものをまとめてタイトルを付けることで、たくさんのアイデアを分類していく手法。

※2 ドット投票

全員に小さな丸いシールを同数ずつ渡し、共感する内容や良いと思うアイデアを選び投票する。

4 今後の課題

食を取り巻く環境及び食をめぐる市民の動向を踏まえた今後の課題としてまとめています。

(1) 食を取り巻く国・県の状況

- 核家族化の進行や共働きの増加により、家族で食卓を囲む時間が十分に取れない状況にあります。
- 食の外部化が進み、食生活の乱れや栄養の偏り等の問題も指摘されています。
- 生活習慣病が増加するなど、疾病構造が大きく変化しています。
- 地域のつながりの希薄化、食の多様化により、日本の食文化の特色が徐々に失われつつあります。
- 2016（平成 28）年 3 月に策定された国の「第 3 次食育推進基本計画」では、「多様な暮らし」「食の循環や環境」「食文化の継承」を重点課題に掲げており、積極的な対応を図る必要があります。
- 2016（平成 28）年 12 月に策定された県の「第 3 次千葉県食育推進計画」では、全国有数の農林水産業が盛んな本県の特徴を活かし、生産から食卓まで「食のつながり」を意識した食育が推進されています。

(2) 食をめぐる市民の動向

■食生活

- 小学生、中学生、成人の若年層に朝食の欠食率が高くなっています。
- 栄養バランスのとれた食事を心がけている人は増えてきています。
- ふだんから料理を作る人が増えています。
- 週 1 回も家族や友人と一緒に食事をしていない人の割合は少なくなっています。
- ふだん食べている食品では、米や魚類が減り、肉類が増えています。
- 食べ残しや食品の廃棄を気にかける人が増えています。
- 食の安全については、食をめぐる環境の変化などにより関心事の比重が変わりつつあります。

■地産地消・食文化

- 地産地消への関心は高まりつつあります。
- 8 割以上の人々が、農産物直売所を利用し、安全・安心なものであれば、少し価格が高めでも地場産物を購入する人も増えています。
- 地場産物の購入等についての情報発信が求められています。
- 収穫、栽培など様々な農業体験に参加したことのある人が増えています。
- 地場産物や郷土料理を知っている人は、まだまだ少ない状況にあります。

(3) 今後の課題

- 栄養バランスのとれた食生活の実践に向けた働きかけが必要となっています。
- 朝食の欠食や、栄養バランスのとれた食事摂取の機会が少なくなりがちな若い世代への食育を推進していく必要があります。
- 食育への意識を高めるためにも、農産物を育て、収穫する喜びを知ることが重要であり、体験機会を充実していく必要があります。
- 家族や友人とともに食事をとることで、コミュニケーションを図り、豊かな心が育まれるよう、共食の環境を整えていく必要があります。
- 食に関する情報が氾濫する中、食品の安全をはじめとする食に関する正しい知識と理解を深める必要があります。
- 食品が食べられる状態で廃棄される食品ロスが問題になっており、食べ残し防止を通して自然の恩恵や生産者への感謝の気持ちを育み、環境に配慮することが求められています。
- 農産物直売所の認識も高まり、利用の機会が広がっていますが、情報の発信などにより、直売所のPRや活性化が求められています。
- 郷土料理は成田の歴史・文化に培われ、食べ継がれてきたものですが、子どもたちや若い世代が郷土料理に触れる機会を創出し、食文化を大切にする気持ちを育むことが求められています。

第3章 計画の基本的考え方

1 基本理念

食は、健康で元気に生きるための基本となるものであり、からだの健康だけでなく、暮らしの質や生きがいといった心の健康にも関わるものであり、市民の暮らしを豊かにする大切なもの。

次代を担う子どもたちを含む、一人ひとりの市民が、望ましい食生活や正しい知識を身につけ、生涯にわたって元気に暮らせるまちを目指し、基本理念を以下のように定めます。

「食が育む元気なからだ
食でつながる豊かな心」

2 基本目標

基本理念の「食が育む元気なからだ 食でつながる豊かな心」を実現するため、4つの基本目標を設定し計画を推進します。



目標 1 市民への食育の普及

アンケート結果をみると、食育に関する認知度は高まっていますが、食育への関心は低下しており、「忙しい」などの理由で食育に取り組めていない現状があります。

子どもや保護者を中心に、市民一人ひとりが食や食育の必要性和重要性をしっかりと理解し、関心を持てるよう、それぞれのライフステージに応じた意識づくりを進めるとともに、具体的な行動を始められるような普及支援に努めます。

特に、20歳代、30歳代の若い世代は、栄養の偏りや朝食の欠食など改善すべき点が多いことから、若い世代が食に関心を持てるよう、食育を推進します。

また、市民や子どもたちが食べ物や食に対する感謝の気持ちをもてるよう、野菜の収穫等の農業体験や調理などの体験機会を充実します。

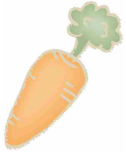


目標 2 健全な食生活で、元気なからだと心を育む

市民が健康で元気に生活できるようにするためには、生活習慣の中でも健全な食生活が重要です。食と体のつながりを理解し、生活習慣病の予防及び改善に取り組み、健康寿命の延伸につながるよう、食育を推進します。

特に、「早寝・早起き・朝ごはん」運動に代表されるように、子どもの頃に正しい食習慣と生活リズムを身につけることができるよう、家庭への積極的な働きかけや支援に力を入れるとともに、学校・幼稚園・保育所における成長に応じた食に関わる体験や給食を通じて、子どもの健やかな発育を促すように努めます。

また、食に対する感謝の気持ちをこめる食事マナーの向上、家族や友人等と食卓を囲んで、共に食事を取りながらコミュニケーションを図る共食を推進します。



目標 3 安全・安心な食の環境づくり

食の安全・安心を求める声が高まっています。食に関する様々な情報が氾濫する中で、一人ひとりが健全な食生活を営むためには、食品の安全性をはじめとして、食生活や健康に関する正しい知識を持ち、安全・安心な食べ物を選ぶ力を身に付けていくことが大切です。そのため、安全・安心な消費生活ができるよう、啓発活動や情報提供を行います。

また、食育においても食品ロスの削減や食べ残しを減らすなど、環境保全活動と関連付けてエコライフに取り組みます。

市内では「ちば食育ボランティア」や「ちばエコ農産物販売協力店舗」、「ちば食育サポート企業」がそれぞれ活動をしており、こうしたボランティアや企業などと連携し、食育を推進していきます。



目標 4 地域の食文化の魅力発信

本市の特性である、生産地と大消費地が近接していることや、成田国際空港を擁し、外国人と交流しやすい環境にあることなどを活かしながら、食をテーマにした観光交流など食を楽しむ機会や学ぶ機会を創出することで、本市が誇る豊富な食資源の活用やブランド化を積極的に推進します。

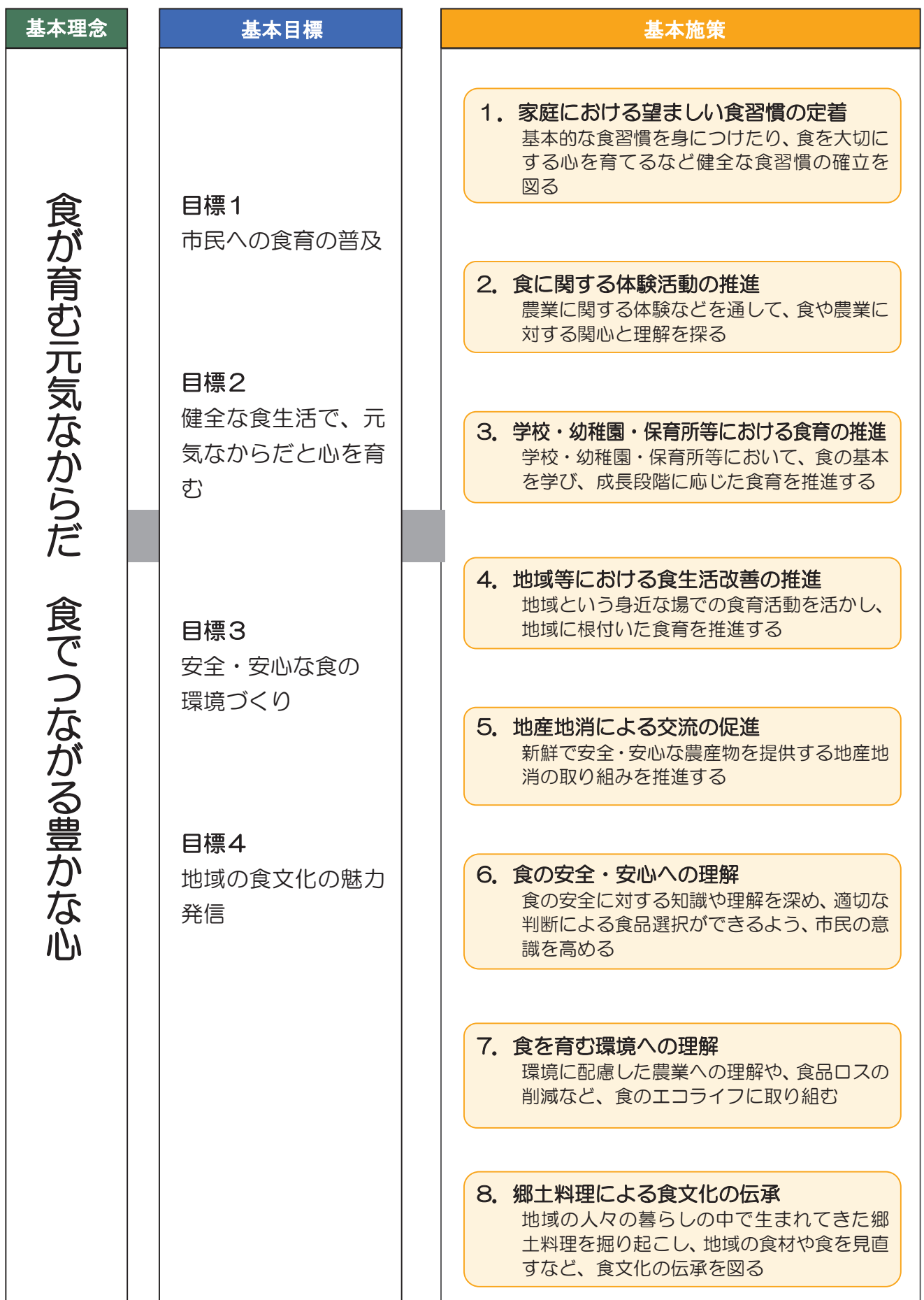
また、消費者のニーズに合った農業生産と、生産された農作物を地域で消費する活動を通じて、農業生産者と消費者が“顔が見え、話しができる”関係に結びつけるよう努めます。これにより、消費者が安全で新鮮な地場産物を購入できる機会を得られるよう、農業生産者とそれに関連する産業の活性化を図ります。

3 目標値一覧

施策を推進していくにあたり、成果や達成度を指標により把握できるよう、目標値を設定します。

指標	対象	現状値 2016 (平成 28)年度	目標値 2022 (平成 34)年度
目標1 市民への食育の普及			
食育に関心を持っている人の割合	20 歳以上	74.4%	90%以上
食育を実践している人の割合	20 歳以上	52.8%	60%以上
目標2 健全な食生活で、元気なからだを育む			
「食事バランスガイド」等の食生活上の指針を参考にしている人の割合	20 歳以上	48.1%	60%以上
1日2回以上栄養バランスのとれた食事を心がけている人の割合	20 歳以上	72.2%	80%以上
朝食を欠食する人の割合	小学 5 年生	3.2%	0%を目指す
	中学 2 年生	5.7%	0%を目指す
	20 歳代男性	26.1%	13%以下
	20 歳代女性	19.5%	9%以下
	30 歳代男性	16.7%	8%以下
	30 歳代女性	7.0%	3%以下
週1回も家族や友人と食事をしていない人の割合	20 歳以上	7.1%	5%以下
	60 歳代	8.1%	5%以下
目標3 安全・安心な食の環境づくり			
食品を購入する際、栄養成分表示を参考にしている人の割合	20 歳以上男性	47.6%	60%以上
	20 歳以上女性	58.4%	70%以上
食べ残しなどを減らす努力をしている人の割合	20 歳以上	54.1%	70%以上
目標4 地域の食文化の魅力発信			
成田市の地場産物の認知度	小学 5 年生 中学 2 年生	49.2%	80%以上
	20 歳以上	41.8%	70%以上
成田市の郷土料理の認知度	20 歳以上	15.7%	30%以上

4 体系図



第4章 具体的な取り組み

1 家庭における望ましい食習慣の定着

食育は家庭で行うことが基本であり、子どもが健やかに成長するための基本的な食習慣を身につけ、食を大切にする心を育てる場でもあります。しかし、ライフスタイルや食を取り巻く環境の変化の中で、食生活や食習慣の乱れが生じています。

食習慣は、小さい頃から日々の体験を積み重ねることにより身につくことから、学校や地域等と連携しながら家庭における望ましい食習慣の定着を図ります。

①生活リズムと食習慣の習得

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
母親学級	<ul style="list-style-type: none">・妊娠中・産後の食事や、離乳食についての講話と調理実習を行います。・妊娠中の健康についての講義や歯科健診を実施します。	健康増進課
赤ちゃん相談 4 か月児 10 か月児	<ul style="list-style-type: none">・赤ちゃん相談時に、離乳食の進め方・試食の提供を行います。また、個別相談において子どもの食欲や成長・発達段階に合わせた離乳食の進め方を伝えます。・個別ブラッシング実習などを行います。	健康増進課
幼児健診等 1 歳 6 か月児 むしば予防はみがき 相談 2 歳児歯科 3 歳児	<ul style="list-style-type: none">・幼児健診などで、幼児食の進め方、おやつを紹介・試食の提供を行います。また、個別相談において、子どもの発達段階に合わせた食事の進め方を伝えます。・個別ブラッシング実習やフッ化物歯面塗布などを行います。	健康増進課

脳は大食漢！！

コラム ～朝食が大事な理由～

脳に必要な栄養素 → ブドウ糖（ごはん・パン・うどんなど）
補給されない…授業に集中できない、頭の回転が悪い、意欲が出ない

アンケート結果からもわかるように、朝食を摂らない方が多いですね。最初から、バランスよく…なんて無理。まず、大事なのは【食べること】。

脳は、噛むことによって刺激され活性化されます。

うどん・パン・バナナ・ヨーグルトなどから始めてみてはいかがでしょうか。

ごはんには「レシチン」という記憶力や集中力を向上させる成分が多く含まれているので、朝食にはBESTです。

②望ましい食習慣の形成

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
朝食摂取の促進	・保育所の児童等を対象に、視覚教材（大型絵本・エプロンシアター等）を活用した「早寝・早起き・朝ごはん」の推進を行います。	保育課
	・母親学級、赤ちゃん相談、幼児健診、健康教室、健康教育等で、生活リズムを整え、朝食摂取を含めた望ましい食習慣を伝えます。 ・地区保健推進員の伝達講習会で、生活リズムを整え、朝食摂取を含めた望ましい食習慣を伝えます。	健康増進課
	・市内小・義務教育学生を対象に、朝食に関するポスター展を開催し、朝食の大切さについて周知します。	農政課
	・市内の小・義務教育学校5年生を対象に、学級担任と連携して、朝食についての食に関する指導を行います。 朝食の必要性や望ましい組み合わせを理解することにより、朝食の欠食をなくす意欲が持てることを目指します。 また、授業で使用したワークシートに保護者からコメントをもらうことにより、学校と家庭が連携できるよう働きかけます。	教育指導課 学校給食センター

目標（指標名）	現状値 2016 （平成28）年度	目標値 2022 （平成34）年度
食育に係る健康教育等の実施回数	260回	271回
地区保健推進員活動回数	98回	112回
ポスター展の開催回数	—	年1回

③食育にかかる情報提供の推進

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
食育情報	インターネット等を活用した情報発信を家庭に向けて行います。	保育課 健康増進課

④実践力の向上支援

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
市場の食材を使用した料理教室	消費者を対象に、市場の新鮮な野菜や、魚を使用した料理教室を実施します。	卸売市場

目標（指標名）	現状値 2016 （平成 28）年度	目標値 2022 （平成 34）年度
料理教室参加者数	28 名	100 名
料理教室実施回数	1 回	4 回

コラム ～ワークショップ①～

テーマ「朝ごはん食べてる？若い人こそ朝ごはんを！」

現状、朝食をとることのメリット・とらないことのデメリット、理想の朝ごはんなどの意見を出し合った上で、全員が「毎日食べた方がよい」と思っていることがわかりました。

そう思っているのに朝ごはんが食べられない理由としては、「ごはんより睡眠」「夜アルバイトをすると、寝るのが遅くなり朝も遅くなってしまう」など、多忙な学生生活において、睡眠時間の確保とのせめぎ合いがあるようです。

そうした理由を受けて、朝ごはんが食べられるようにするには、「早寝早起き」「規則正しい生活が大事！」など生活習慣の見直しのほか、「一人暮らしならお弁当と一緒に作る」「シリアルを食べる」「料理をつくる楽しさを見つける」など、調理や簡単に食べられるメニューなどの工夫、料理自体への興味・関心を高めるなどのアイディアを出して頂きました。

ご自身の食生活の見直すきっかけとして、ぜひ実践してほしいですね！

2 食に関する体験活動の推進

食に関する感謝の気持ちを醸成するためには、消費者の農業体験や生産者に対する理解が大切であり、実際に農作物を栽培、収穫し、調理して食べるという体験活動は重要となります。

農業に関する様々な体験の機会を提供し、学校をはじめ幼稚園、保育所、各種団体などの児童や園児、市民等に、食や農業に対する関心と理解を深める体験活動を推進します。

①農業体験の機会を提供

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
市民農園貸付事業	市民の農作業を通じ自然にふれあいたいという要望に応えるために、引き続き市民農園貸付事業を推進します。また、個人の市民農園運営に対する支援を行うとともに、開設に向けた取り組みへの相談等を行っています。	農政課
産業まつり収穫祭	食物の実りを体験してもらうために、市民を対象に市民農園隣接地にて収穫祭として、さつまいも掘りを実施します。	農政課
親子農業体験教室	“自然とのふれあい”や“収穫の喜び”などを通じて農業への理解を深めてもらうとともに、親子での共同作業を通じて家族間のコミュニケーションを図ることを目的に親子体験農業教室を実施します。	農政課

目標（指標名）	現状値 2016 （平成28）年度	目標値 2022 （平成34）年度
産業まつり収穫祭 来場者数	751名	800名
親子農業体験教室 新規参加家族数	11組	15組

②農家との交流支援

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
グリーンツーリズムの推進	グリーンツーリズムとは「都市と農村の交流」のことをいい、都市住民が農場で余暇を過ごし、農業体験を通じて農家との交流を図れるよう支援を行います。	農政課 (農商工連携)

3 学校・幼稚園・保育所等における食育の推進

学校・幼稚園・保育所等は、栄養教諭や栄養士及び保育士等専門職から食の基本を学び、食生活の改善を図ることのできる重要な場となっています。また、学校給食等を通して食の大切さ、楽しみ、マナーを学ぶ場でもあります。

学校で身につけた食に関する知識や理解は、子どもを通じて家庭の食生活に良い影響を与えることも期待できます。幼稚園・保育所等においては、感受性を育むのに大切な時期であり、楽しく食事できることを大切にしていける必要があります。

家庭や地域、関係団体等と連携しながら学校や幼稚園、保育所等成長段階に応じた食育を推進します。



①学校における食育の推進

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
学校における食の指導	成田市「学校の食に関する指導計画」に基づき、栄養士が市内の小中、義務教育学校に出向き、学級担任と連携して食に関する指導を行います。小学校では1年生と5年生を、中学校では1年生を、義務教育学校では1年生と5年生、7年生を対象に実施します。児童生徒が食に関する正しい知識や能力を身につけられるよう特別活動を中心に、栄養士が専門性を活かして系統的に食に関する指導の支援を行います。	教育指導課 学校給食センター
給食の活用	地元でとれた野菜を活用したり、献立に行事食や郷土食を取り入れたり、調理現場を体験したりと、給食を活用した食育を工夫します。また、毎年11月には、地場産物を多く取り入れた「成田給食の日」を実施することにより、児童生徒の地場産物の認知度をあげることを目指します。	教育指導課 学校給食センター
口腔衛生の取り組み	小中、義務教育学校の児童生徒を対象に、歯科健診・健康教育を実施し、口腔衛生に努めるとともに、よく噛んで、味わう食べ方が身につくよう指導に努めます。	健康増進課 教育指導課

②家庭との連携

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
家庭教育学級開催事業	給食センターや学校、保育所で、保護者を対象に給食や食に対する講話や試食会を実施します。保育所・幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校の保護者を対象に、家庭教育のあり方を学ぶ機会とし、家庭における教育力の向上を図ります。重点課題である「食育の推進」を取り上げ、給食センターの視察研修や給食の試食、おやつ作り等の調理実習を行います。	保育課 健康増進課 生涯学習課
給食だより、たべものだより、食育だよりの配布	学校及び保育所の給食の内容を具体的に説明し、理解を深めてもらいます。	保育課 学校給食センター

目標（指標名）	現状値 2016 （平成28）年度	目標値 2022 （平成34）年度
家庭教育学級参加者数	1,213名	1,500名
家庭教育学級実施回数	年61回	年80回

③保育所等での食育の推進

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
幼稚園、保育所における食育の啓発	保育士、栄養士、看護師、調理員など多くの職種の連携のもと、食育に関わる体験、家庭で旬を感じる献立の提供、児童や家庭に向けて食を営む力の基礎を培えるよう食育の啓発に努めます。	保育課
「保育所の食育に関する指針」の取り組み	野菜の栽培・収穫等の体験を通じて感謝の心を育てるとともに多くの種類の食べ物や料理を味わえる献立を給食に取り入れるなどし、食材の紹介や食事のマナー（挨拶・姿勢等）、食具の使い方、お手伝いを身に付けられるよう取り組みます。また、給食サンプルの展示や保護者向けの給食試食会の実施等、給食を活用することにより家庭と連携した食育を推進していきます。	保育課
パクパク教室 ピカピカ教室	こども発達支援センターに通所している親子に対して栄養に関する講話及び調理実習、栄養相談、また歯科健診及びブラッシング指導・フッ化物歯面塗布・摂食嚥下指導を行います。	障がい者福祉課 健康増進課
口腔衛生の取り組み	保育所の児童を対象に、歯科健診・健康教育を実施し口腔衛生に努めるとともに、よく噛んで、味わう食べ方が身につくよう指導に努めます。	保育課 健康増進課

4 地域等における食生活改善の推進

生涯を通じて健康な生活をおくるためには、地域において栄養や食生活に関する情報を得る機会を設ける必要があります。地域活動を推進する一方、食文化や郷土料理など、地域で育まれた食育活動を家庭に浸透させていきます。

生活習慣病の発症・重症化予防のため、食生活改善に取り組み、生活習慣病の予防対策を図ります。

また、すべての市民が適切な食生活を営むことができるよう、情報提供に努め地域活動を推進します。

①食に関する普及啓発

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
健康教育	乳幼児から高齢者までを対象とした健康教育に関する講座等を実施します。	健康増進課
地区保健推進員の伝達講習会	地域住民を対象としたライフステージに応じた食生活に関する知識の普及や、小中学校家庭教育学級への食育等の啓発を行います。	健康増進課
成人向け健康教室	健康や食生活について、正しい知識が習得できるよう、講話・調理実習を実施します。	健康増進課
給食レストラン	地域住民を対象として「なりたの五つ星給食レストラン」を開催し、給食の良さを広く市民に伝えます。	学校給食センター
なりた知っ得出前講座	地域で食生活改善活動を行うため、食に関する知識の習得や実践のための講座を実施します。	生涯学習課

目標（指標名）	現状値 2016 （平成28）年度	目標値 2022 （平成34）年度
食育に係る健康教育等の実施回数（再掲）	260回	271回
地区保健推進員活動回数（再掲）	98回	112回

②生活習慣病等の予防

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
食生活の改善	生活習慣病を予防するため、食生活改善に向けた啓発とともに、医師や保健師・栄養士が健康相談に応じます。また、歯・口腔の健康に関して、歯科医師・歯科衛生士が相談に応じます。	健康増進課

③高齢・障がい者の食事改善

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
配食サービス	在宅高齢者及び心身障がい者に対し、配食サービスを行う事で偏りがちな食事の改善や健康増進を図るとともに、安否確認に努めます。	高齢者福祉課 障がい者福祉課
介護予防の推進	高齢期の食事の栄養改善、口腔機能の維持・向上など教室を実施します。	介護保険課

コラム ～ワークショップ②～

テーマ「あなたはひとり派？みんな派？孤食と共食を考えよう！」

孤食と共食それぞれのメリット・デメリットを整理することからはじめ、デメリットについては解決策まで考えてもらいました。

孤食のメリットとしては、「好きなものが食べられる」「落ち着いて食べられる」「時間を気にしなくてよい」「周りに気を遣わなくて済む」など、内容の自由度・環境や時間的な制約を受けないこと、一方、共食のメリットとしては「コミュニケーションの機会になる」「健康状態の把握になる」「季節感を感じることができる」など食事がコミュニケーションや健康チェックの機会となることなどがあげられました。中には、「祖父母等の誤嚥を防げる！」など医療系の学生さんらしい意見も。

反対に、孤食のデメリットとして「コンビニ弁当が増える」「栄養が偏る」「自分のためだけに作るのは面倒」「食べ方にこだわらなくなる」など、健康や調理、マナーの面での課題があり、その解決策として「健康に気を遣った既製品の活用」「作り置き・保存ができるものをつくる」「一人の時でも食べ方を意識する」などのアイデアを出してくれました。

共食のデメリットとして、「人に合わせなければならない」「食事の内容が制限される」「量を多く作る必要がある」など、時間や内容の自由度に制限が生まれること、調理の大変さなどの課題があり、解決策として「毎日ではなく負担にならないように」「一緒に食べても内容は自由に」など自由度の確保・個人の尊重のほか、「安くて量のある食材を購入する」など、調理をする上での工夫を考えてくれました。

それぞれの良さを意識しつつ、バランスの良い食事を楽しんでほしいですね！

5 地産地消による交流の促進

地産地消とは、地域で生産された農産物を、その地域で消費することを意味し、アンケートの結果から、多くの市民が地場産物を意識的に選んでいる状況がうかがえます。地産地消の活動は、市民と生産者を結びつける取り組みであるとともに、農業生産者とそれに関連する産業の活性化が期待されます。

農業者と市民が、直接、顔をあわせ話ができる関係が実現することから、交流の促進にもつながります。

農産物直売所での販売活動を促進し、新鮮で安全・安心な農産物を提供する地産地消の取り組みを推進するとともに、市民と生産者との交流を促進し、農業への理解と地元農業の振興を図ります。



①地場産物の流通

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
地産地消ガイドマップ	直売農家、直売所等の情報を掲載したマップを作成・配布します。	農政課
販売促進	直売農家、直売所等販売の拠点づくりを進めるとともに、学校給食や飲食店における地場産物の利用を促進します。	農政課

目標（指標名）	現状値 2016 （平成28）年度	目標値 2022 （平成34）年度
地産地消ガイドマップ 配布部数	17,000部	18,000部
農産物直売所の利用率 （よく利用する人の割合）	31%	50%

②学校給食への地場産物の利用

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
学校給食への地場産物の活用	地産地消の推進のため、施設ごとに地元生産者や直売所等と契約・購入により、学校給食への地場産物の活用に取り組みます。	学校給食センター

目標（指標名）	現状値 2016 （平成28）年度	目標値 2022 （平成34）年度
地場産物※の活用率(野菜)	42.5%	50%

※目標での地場産物は、千葉県産と成田市産をあわせたものを指しています。

6 食の安全・安心への理解

食の安全が損なわれることは、健康に重大な影響や被害を及ぼすことにつながります。食の安全性をはじめとする食に関する知識と理解を深めるため、食品の生産・加工・流通に携わる事業者と連携を図るとともに、市民に対しても、食の安全に対する普及・啓発に努めます。

また、食の安全性や表示について理解を深め、適切な判断による食品選択ができるよう、市民の意識を高めます。

①消費者との交流促進

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
市場見学	市民・小学生等を対象に、市場内施設の見学を実施します。	卸売市場
市場一般開放	市民に、市場について知ってもらうため、市場を開放し、買い物をできるようにするとともに、毎月一般市民向けのイベント「わくわく感謝デー」を実施します。	卸売市場

目標（指標名）	現状値 2016 （平成28）年度	目標値 2022 （平成34）年度
市場見学参加者数	260名	400名
わくわく感謝デー参加者数	30,968名	40,000名



②情報提供

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
消費者講座	食品表示の上手な見方など、食を含む消費生活に関連した講座を実施します。	商工課
健康教育	食品表示（栄養成分表示等）を見ることにより、アレルギーの誤食防止や食中毒・生活習慣病予防などにつながることを伝えます。	健康増進課

7 食を育む環境への理解

学校や地域、関係団体等と連携し、農業体験や市民農園等による農産物を育て、収穫する楽しさ、生産に係る環境学習機会の提供などを通して、環境に配慮した農業への理解を促進します。

また、食べられるにもかかわらず廃棄されている食品ロスの削減に向け、家で「もったいない」の心を持って、食べ残しを減らすといった環境に配慮した取り組みを推進していきます。

①安全安心な農産物の供給

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
有機農業の推進	環境負荷の低減や安全安心な農産物の供給のため、有機農業の推進に取り組みます。	農政課
ちばエコ農産物の普及	化学合成農薬と化学肥料を通常の半分以下に減らして栽培し、認証を受けたちばエコ農産物の普及に取り組みます。	農政課

目標（指標名）	現状値 2016 （平成28）年度	目標値 2022 （平成34）年度
有機農産物生産者数	4経営体	8経営体
「ちばエコ農産物」認証戸数 （延べ）	163戸	235戸

②農業の理解促進

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
各種教室の実施	みんなの農村ネットワークにより、田んぼと畑の耕育教室や、食と命の教室などを実施します。	農政課

目標（指標名）	現状値 2016 （平成28）年度	目標値 2022 （平成34）年度
各種教室への協力団体数	2団体	3団体

③地域との連携

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
食品ロス削減の協力	各経済団体、市内飲食店などと連携し、食品の無駄を減らすようPRに努めます。	商工課

8 郷土料理による食文化の伝承

郷土料理とは、地域の自然風土、食材、食習慣、歴史文化等を背景として、地域の人々の暮らしの中での創意工夫により生まれたものです。

郷土食には、食べ物を保存する知恵や工夫など、食べ物の大切さを実感することができ、子どもたちが郷土食に触れることは、地域の文化や食べ物の大切さの理解につながります。

郷土料理の継承を図ることは、食文化の伝承につながるだけでなく、新たな食文化の創造も期待されます。和食がユネスコの無形文化遺産に登録されたことをきっかけに、地域の食材や食を見直し、次世代に継承するとともに、郷土料理を掘り起こし、食文化を通じ、地域の振興を図ります。

①食文化の伝承

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
太巻き寿司講習会	米飯食文化の良さを広め、食文化の伝承と消費拡大を図ります。	農政課
行事食の普及	保育所や学校において、伝統ある行事食の普及に努めます。	保育課 学校給食センター

目標（指標名）	現状値 2016 （平成28）年度	目標値 2022 （平成34）年度
太巻き寿司講習会 新規参加者数	18名	36名



②ご当地メニューの開発

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
ご当地メニューの商品化と普及	食品関連事業者と連携し、ご当地メニューの商品化を推進し、成田市名物として普及に努めます。	農政課

目標（指標名）	現状値 2016 （平成28）年度	目標値 2022 （平成34）年度
料理コンテストの開催	—	年1回

■ ライフステージでみる食育

ステージ	テーマと取り組みのポイント
妊娠期	<p>《テーマ》 必要な栄養について理解し、バランスのよい食事をしよう</p> <p>〈ポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠前から健康なからだをつくろう ・適正な体重増加を知り、健康的な食習慣を
乳児期・幼児期 (0～5歳)	<p>《テーマ》 生活リズムをつくり、食べる意欲を育てよう</p> <p>〈ポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な食べ物に触れ、関心をもつ ・本来の味を経験し、味覚を育てる ・規則正しい生活リズムを身につける ・家族が手本となり、食事のあいさつや箸の持ち方などマナーの基礎をつくる
学齢期・思春期 (6～18歳)	<p>《テーマ》 健全な食生活を身につけ、自らの健康を考えよう</p> <p>〈ポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活リズムを定着させる ・農業体験学習や調理をすること等により、食べ物を「いただく」意味を考える ・家族や友だち等と会話を楽しみながら食事し、マナーを定着させる ・栄養バランスのとれた食事の大切さを知る ・食文化にふれる
青年期・壮年期 (19～64歳)	<p>《テーマ》 食生活の自己管理による、生活習慣病の予防に努めよう</p> <p>〈ポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病予防のために、栄養バランスを考えた食事をする ・正しい知識に基づいて、食に関する情報を選択する ・自らが家庭における食育に取り組む ・次世代に食文化を伝える
高齢期 (65歳～)	<p>《テーマ》 健康長寿を目指し、次世代に食文化を伝えよう</p> <p>〈ポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人との交流を保ち、心豊かな暮らしを目指す ・家族や友人と楽しく食事をする ・食文化を地域に伝える ・定期的に健康診断を受け、健康状態に応じた食生活を実践する

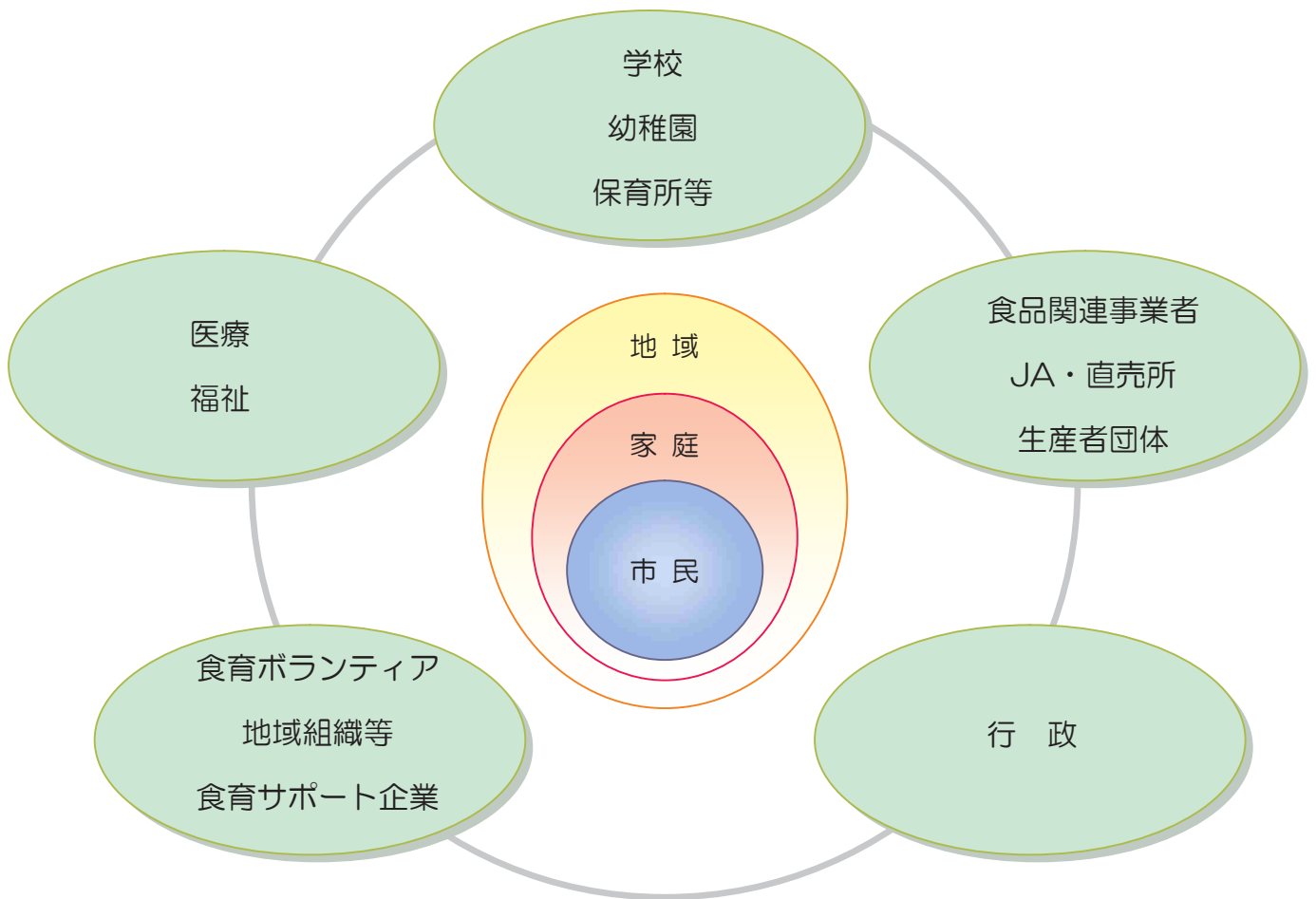
第5章 計画の推進

1

ネットワーク体制

(1) 推進体制

本計画は、すべての市民を対象とするものであり、家庭はもちろん、地域、学校や幼稚園、保育所等、行政、関係団体等が、それぞれの連携の強化を図りながら、一体となって食育を推進してまいります。



(2) それぞれの役割

食育を推進するため、それぞれの主体ごとの主な取り組み内容を示します。

取り組み主体	取り組み内容
市民 家庭 地域	・健康なからだをつくります。
	・規則正しい生活リズムで、3食バランスよく食べます。
	・朝ごはんの大切さを伝えます。
	・望ましい、おやつのかき方を考えます。
	・家族や友人等と、楽しく食事をします。
	・地場産物を取り入れた食事をします。
	・料理教室やイベント、研修会など、食を楽しむ場所、学べる場所に積極的に参加します。
学校 幼稚園 保育所等	・食に関する指導計画等に基づき、食育に取り組みます。
	・様々な教育活動を通して、食べ物の大切さや人に感謝する心を育てます。
	・朝ごはんの大切さを伝えます。
	・家族や友人等と一緒に食べることの喜びや楽しさを伝えます。
	・食事のマナーが身につくよう指導します。
	・体験学習を通じて、児童生徒と生産者との交流を図ります。
	・郷土料理や行事食について学ぶ機会を設けます。
	・地場産物を、給食献立に積極的に取り入れます。
医療 福祉	・市民への健康相談・指導（栄養・口腔など）を充実します。
	・高齢者などの食に関する指導や支援に取り組みます。
食品関連事業者 JA・直売所 生産者団体	・地場産物を使用した、栄養バランスのよいレシピの提案、提供をします。
	・安心して安全な農作物を生産・提供します。
	・地場産物の安全供給に取り組みます。
	・農業体験などによる消費者との交流を通じて、食の大切さ、食への理解が深まるよう取り組みます。
食育ボランティア 地域組織等 食育サポート企業	・朝ごはんの大切さを伝えます。
	・ライフステージに合った、望ましい食生活の指導や支援に取り組みます。
	・地場産物の良さを伝えるため、体験の場の提供や指導に取り組みます。
	・地場産物の良さを広め、消費拡大を図ります。
	・郷土料理、行事食の普及に努めます。
・食の安心・安全に関する情報を提供します。	

取り組み主体	取り組み内容
行政	・食育に関する積極的な情報提供を行うとともに、普及啓発活動に取り組みます。
	・ライフステージにあわせた各種健診をとおり、健康的な食生活が送れるよう支援します。
	・市民への健康相談・指導（栄養・口腔など）を充実します。
	・生活習慣病予防や歯周病予防など、健康づくり事業を推進します。
	・高齢者などの食に関する指導や支援に取り組みます。
	・食の安心・安全に関する情報を提供します。
	・地場産物の良さを広め、消費拡大を図ります。
	・郷土料理、行事食の普及に努めます。 ・農産物直売所などの情報を発信します。

2 計画の進行管理

本計画に基づく、食育の取り組み状況や目標値については、成田市食育推進計画に係るワーキングチーム等において、評価や検証を行いながら、計画を推進していきます。

そのため、計画の進捗状況や社会情勢の変化や、国の動向によっては、計画期間中においても必要に応じて見直しを行うこととします。

資料編

1. 成田市食育推進計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 食育基本法（平成17年法律第63号）第18条第1項の規定により、市民が健全な心身を培い、豊かな人間性を育めるよう、食育を総合的かつ計画的に推進するため、成田市食育推進計画（以下「計画」という。）を策定するに当たり、成田市食育推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、計画の策定に関する事項について、調査及び研究を行い、計画の策定に係る方針について検討し、審議する。

(組織)

第3条 委員会は、別表に掲げる者をもって組織する。

2 委員会に会長及び副会長を置き、会長は経済部長の職にある者を、副会長は会長が指名する者をもって充てる。

3 会長は、委員会の事務を総理し、委員会を代表する。

4 会長に事故があるときは、副会長がその職務を代理する。

(会議)

第4条 委員会の会議は、会長が招集し、その議長となる。

2 委員会の会議には、会長が必要と認める関係者等を出席させ、参考意見又は説明を聴取することができる。

(ワーキングチーム)

第5条 計画の策定に関し技術的な検討を行うため、委員会にワーキングチームを置くことができる。

2 ワーキングチームは、会長が指名する者をもって組織する。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、経済部農政課において処理する。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附則

(施行期日)

1 この要綱は、平成28年12月21日から施行する。

(成田市食育推進計画策定委員会設置要綱の廃止)

2 成田市食育推進計画策定委員会設置要綱（平成22年3月11日施行）は廃止する。

別 表

委 員 名	備 考
企画政策部長	
福祉部長	
健康子ども部長	副会長
経済部長	会長
教育部長	
企画政策部企画政策課長	
福祉部高齢者福祉課長	
福祉部障がい者福祉課長	
健康子ども部保育課長	
健康子ども部健康増進課長	
経済部商工課長	
経済部農政課長	
経済部卸売市場長	
教育部教育指導課長	
教育部学校給食センター所長	
教育部生涯学習課長	

2. 策定経過

年月日	内容ほか
平成 28 年 12 月 21 日	第 1 回策定委員会開催 ・ 策定委員会及びワーキングチーム設置要綱について ・ 今後のスケジュールについて ・ 食育アンケートについて
平成 29 年 2 月 3 日	第 1 回ワーキングチーム打合せ会議開催 ・ 食育アンケート実施に向けての内容確認について
平成 29 年 3 月中～下旬	計画策定に係る食育アンケートの実施 ・ 一般市民 2,000 人 対象小中学生 2,285 人
平成 29 年 7 月 27 日	第 2 回ワーキングチーム打合せ会議開催 ・ 食育アンケート集計結果について ・ 今後のスケジュールについて
平成 29 年 10 月 13 日	第 3 回ワーキングチーム打合せ会議開催 ・ 第 2 次成田市食育推進計画（素案）について
平成 29 年 10 月 20 日	第 2 回策定委員会開催 ・ 第 2 次成田市食育推進計画（素案）について
平成 29 年 10 月 21 日	国際医療福祉大学とのワークショップ開催 ・ 大学を会場に、2つのテーマをもとに実施
平成 29 年 11 月 14 日	第 4 回ワーキングチーム打合せ会議開催 ・ 第 2 次成田市食育推進計画（素案）について
平成 29 年 11 月 21 日	第 3 回策定委員会開催 ・ 第 2 次成田市食育推進計画（素案）について
平成 29 年 12 月 13 日	成田市議会 経済環境常任委員会報告 ・ 第 2 次成田市食育推進計画（素案）について
平成 29 年 12 月 21 日～ 平成 30 年 1 月 19 日	パブリックコメントの実施 ・ 第 2 次成田市食育推進計画（素案）についての意見募集
平成 30 年 2 月 2 日	第 5 回ワーキングチーム打合せ会議開催 ・ 第 2 次成田市食育推進計画（素案）に関するパブリックコメントについて
平成 30 年 2 月 16 日	第 4 回策定委員会開催 ・ 第 2 次成田市食育推進計画（素案）に関するパブリックコメントについて ・ 第 2 次成田市食育推進計画（案）について
平成 30 年 3 月 7 日	成田市議会 経済環境常任委員会報告 ・ 第 2 次成田市食育推進計画について

3. アンケート調査票

(1) 一般市民調査票

I あなたご自身のことについて、お答えください。(あてはまるもの1つに○)

●年代	20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 70歳代以上	性別	男性 女性
●職業	1. 会社員 2. 公務員、団体職員 3. 自営業 4. 農業 5. パート、アルバイト 6. 専業主婦(主夫) 7. 学生 8. 無職 9. その他()	●家族	1. 単身(ひとり暮らし) 2. 夫婦のみ(1世代世帯) 3. 親と子(2世代世帯) 4. 親、子、子の子(3世代世帯) 5. その他()

※ 同居しているご家族に、18歳以下のお子様がいいらっしゃる場合、あてはまるもの、すべてに○をつけてください。

1. 就学前	2. 小学生	3. 中学生	4. 15歳(中学生を除く)から18歳以下
●地区	1. 成田 2. 公津 3. 八生 4. 中郷 5. 久住 6. 豊住 7. 遠山 8. ニュータウン 9. 下総 10. 大栄 11. わからぬ	※お住まいの地区がわからない方は住所をお書きください。記入例…(成田市花崎町)	

II 食育について、お聞きます。

問1 「食育」という言葉や、その意味を知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 言葉も意味も知らない	2. 言葉は知っているが意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない	

問2 「食育」に関心がありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. ある	2. どちらかといえばある	3. どちらかといえばない	4. ない	5. わからない
-------	---------------	---------------	-------	----------

問3 問2で「1. ある」「2. どちらかといえばある」と答えた方にお聞きます。その理由は何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)

1. 心身の健康(歯、口を含む)の向上	2. 食生活、食習慣の改善	3. 食品の安全性に関する理解	4. 食を通じたコミュニケーション	5. 食事に関する、あいさつの励行や作法の習得	6. 自然の恩恵や、生産者等への感謝や理解、農業漁業等に関する体験活動	7. 環境との調和、食品廃棄の削減や食品リサイクルに関する活動	8. 郷土料理、伝統料理等の優れた食文化の伝承	9. その他()
---------------------	---------------	-----------------	-------------------	-------------------------	-------------------------------------	---------------------------------	-------------------------	-----------

《食育に関するアンケート調査 ご協力をお願いします》

日頃より、市政にご理解、ご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。本市では、平成17年7月に国で施行された「食育基本法」に基づき、食育を総合的かつ計画的に推進するため、平成23年3月に「成田市食育推進計画」を策定し、健康、農林、教育等の様々な分野において推進活動を進めています。

今回お送りしました調査票は、皆様の食育に関する意識や関心、日頃の食生活等についてお伺いし、その結果を今後の取り組みに活かせるよう参考にさせていただきます。お忙しいところ恐縮に存じますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力ください。よろしくお願いいたします。

平成29年 3月 成田市長 小泉 一成

「食育」とは、様々な経験を通じて、「食」に関する知識とバランスを育むことです。食べることが生涯にわたって続く基本的な営みですから子どもももちろん、大人になっても「食育」は重要です。健康的な食のあり方を考えたり、誰かと一緒に食事や料理をしたり、食べ物の収穫をしたり、季節や地域の料理を味わったりするなどの食育を通じて「実践の環(わ)」を広げましょう。

《ご記入にあたってのお願い》

この調査は、市内にお住まいの20歳以上の方の中から無作為抽出した2,000人を対象に実施するものです。

①あて名のご本人がご回答ください。ただし何らかの事情により、ご本人が回答できない場合はご家族又はご本人と日常よく関わっておられる方がお答えください。

②選択肢がある場合は、あてはまるものを○で囲んでください。

③「その他」にあてはまる場合は、その番号を○で囲み()内になるべく具体的に記入してください。

④質問によっては、回答していただく方が限定されていたり、○の数に制限のあるものがありますので、注意してご記入ください。

本調査は無記名で行い、お伺いした内容は、個人情報取扱いに十分配慮し、統計的に処理させていただきます。

返送期限
3月31日(金)

※ご回答いただきましたアンケートは同封の返信用封筒に入れて切手を貼らずにご返送ください。

お問い合わせ先…〒286-8585 成田市花崎町760番地
成田市経済部農政課 0476-20-1542

※ 平成29年1月31日現在の住民記録データに基づいてお送りしています。

問4 日頃から「食育」を実践していますか。(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|---------------------|--------|
| 1. 積極的にしている | } →問6へ |
| 2. できるだけ、するようになっている | |
| 3. あまりしていない | |
| 4. していない | |
| 5. わからない | |

問5 問4で「3. あまりしていない」「4. していない」「5. わからない」と答えた方にお聞きします。あなたが食育を実践していない理由は何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)

- | |
|----------------------------|
| 1. 関心がないから |
| 2. 仕事や趣味などで忙しいから |
| 3. 食費を安くすることの方が重要だから |
| 4. 特に意識しなくても問題はないから |
| 5. よく知らないから |
| 6. 活動や行動をしたくても、情報が入手できないから |
| 7. その他 () |
| 8. 特にない |

問6 18歳以下のお子様がいいらっしゃる方にお聞きします。子どもに対する以下の食育についてどのくらい重要だと思いますか。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

- ①料理づくりへのかわり
- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 重要 | 2. やや重要 |
| 3. それほど重要ではない | 4. 重要ではない |
- ②食生活の改善
- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 重要 | 2. やや重要 |
| 3. それほど重要ではない | 4. 重要ではない |
- ③食事のマナー
- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 重要 | 2. やや重要 |
| 3. それほど重要ではない | 4. 重要ではない |
- ④農業、漁業体験
- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 重要 | 2. やや重要 |
| 3. それほど重要ではない | 4. 重要ではない |
- ⑤食文化や伝統の継承
- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 重要 | 2. やや重要 |
| 3. それほど重要ではない | 4. 重要ではない |

⑥食を通じたコミュニケーション

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 重要 | 2. やや重要 |
| 3. それほど重要ではない | 4. 重要ではない |

⑦食べ物の無駄を減らす

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 重要 | 2. やや重要 |
| 3. それほど重要ではない | 4. 重要ではない |

⑧自然や生産者への感謝

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 重要 | 2. やや重要 |
| 3. それほど重要ではない | 4. 重要ではない |

⑨安全な食を選べる力

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 重要 | 2. やや重要 |
| 3. それほど重要ではない | 4. 重要ではない |

問7 毎年6月は、食育月間であることを知っていますか。(いずれか1つに○)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っている | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

問8 毎月19日は、食育の日であることを知っていますか。(いずれか1つに○)

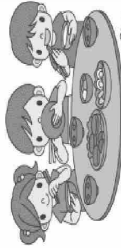
- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っている | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

問9 食育の推進に関わるボランティア活動に、機会があれば参加してみたいと思いませんか。(いずれか1つに○)

- | | | | |
|----------|-------|----------------|-------|
| 1. 参加したい | →問10へ | 2. 参加したいとは思わない | →問11へ |
|----------|-------|----------------|-------|

問10 問9で「1. 参加したい」と答えた方にお聞きします。どのようなボランティア活動に参加してみたいと思いませんか。(あてはまるもの3つまでに○)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 郷土料理、伝統料理等の食文化継承活動 |
| 2. 農業、漁業などに関する体験活動 |
| 3. 心身の健康 (噛、口を含む) の向上に関する活動 |
| 4. 食生活の改善に関する活動 |
| 5. 生活習慣病予防などのための料理教室 |
| 6. 食品廃棄や食品リサイクルに関する活動 |
| 7. 食品の安全や表示に関する活動 |
| 8. 食育に関する国際交流活動 |
| 9. その他 () |
| 10. わからない |



Ⅲ あなたの食生活や健康について、お聞きします。

問 11 朝食を食べていますか。(あてはまるもの1つに○)
 ※栄養ドリンク剤、野菜ジュース等の場合は含みません。

1. ほぼ毎日食べている 2. 週に4～5日食べる 3. 週に2～3日食べる 4. ほとんど食べない	→問 13へ
---	--------

問 12 問 11で「2. 週に4～5日食べる」「3. 週に2～3日食べる」「4. ほとんど食べない」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか。
 (あてはまるもの1つに○)

1. 時間がない 3. 食べたくない 5. 健康法として	2. 家族が作ってくれない 4. 食べない方が調子がいい 6. その他 ()
------------------------------------	---

問 13 栄養バランスのとれた食事(主食、主菜、副菜を組み合わせた食事)を、1日2回以上心がけていますか。(いずれか1つに○)

1. はい →問 14へ	2. いいえ →問 15へ
--------------	---------------

問 14 問 13で「1. はい」と答えられた方にお聞きします。栄養バランスのとれた食事を1日2回以上とっている日は週に何日ありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 毎日	2. 週6日	3. 週4～5日
4. 週2～3日	5. 週1日以下	

問 15 普段、料理を作りますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

問 16 普段、家族や友人と一緒に食事をとっていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

問 17 普段、次の食品を、どれくらい食べていますか。(飲んで) いますか。

(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

②野菜類

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

③魚類

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

④肉類

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

⑤甘いもの(ケーキやまんじゅうなどの菓子、砂糖入りコーヒエ、清涼飲料水など)

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

⑥惣菜や弁当などの調理済食品、インスタント食品や冷凍・レトルト食品などの半調理済食品

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

⑦外食(ファーストフードやレストランなど、飲食店での食事)

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

問 18 健全な食生活を実践するには、自分にとつての必要な食事の量を把握し、その人に適した食事をとることが必要です。これには、食生活上の指針などを参考にするのが有効とされています。

●食事バランスガイド

「何を」「どれだけ」食べたらいいのかをコマの形で表したものを。

●食生活指針

望ましい食生活を実践するための指針。

●日本人の食事摂取基準

1日に必要なエネルギー、栄養素の摂取量の目安を示したものです。

●6つの基礎食品

栄養成分の類似している食品を六群に分類したものです。

●3色分類

食品の体内での主な働きを3つに分け主な食品を分類したものです。

●ちば型食生活(グー・パー食生活)

鮮度が良く栄養たっぷりでおいしい干菜類産の農産物や水産物を上手に取り入れたバランスのよい食事。

おかずの量はおおよその目安として、主菜は「グー」副菜は「パー」で示したものを。

健全な食生活を実践するため、このような指針などを参考にしていますか。

(あてはまるもの3つまでに○)

1. 食事バランスガイド	2. 食生活指針	3. 日本人の食事摂取基準
4. 6つの基礎食品	5. 3色分類	6. ちば型食生活
7. 特になし	8. その他 ()	

問 19 食事の際、「いただきます」「ごちそうさまでした」「ごちそうさまでした」のあいさつをしていますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. している
- 2. ときどきしている
- 3. あまりしていない
- 4. まったくしていない

問 20 食品を買いすぎない、作りすぎないなど食べ残しを減らす努力をしていますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. している
- 2. ときどきしている
- 3. 気にかけているが、なかなかできていない
- 4. していない

問 21 飲食店やスーパー、または家庭において、食べ残しや食品の廃棄が発生していることに関して「もったいない」と感じることがありますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. いつも感じている
- 2. ときどき感じる
- 3. あまり感じない
- 4. まったく感じない

問 22 食事は楽しいですか。(いずれか1つに○)

- 1. 楽しい
- 2. 楽しくない

問 23 現在の食生活に満足していますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. 満足
- 2. やや満足
- 3. やや不満
- 4. 不満

問 24 日頃の食生活で、悩みや不安はありますか。(いずれか1つに○)

- 1. ある →問25へ
- 2. 特にない →問26へ

問 25 問24で「1. ある」と回答した方にお聞きします。どのようなことに悩みや不安を感じていますか。(あてはまるもの3つまでに○)

- 1. 自分の健康 (歯、口を含む)
- 2. 家族の健康 (歯、口を含む)
- 3. バランスや食事内容
- 4. 将来の食料供給
- 5. 食文化の伝承
- 6. 料理が苦手
- 7. 食品の安全性
- 8. 家計や食費
- 9. 食べ残しや廃棄など、環境への影響
- 10. 買い物や、食事づくりが困難
- 11. 孤食 ※
- 12. その他 ()

※孤食・・・ひとりで食事をとること。

IV あなたの生活や体について、お聞きします。

問 26 内臓脂肪症候群 (メタボリックシンドローム) という言葉や、その意味を知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. 言葉も意味も知っている
- 2. 言葉は知っているが意味は知らなかった
- 3. 言葉も意味も知らなかった



メタボリックシンドロームとは・・・

内臓脂肪が蓄積することによって、血圧や血糖が高くなったり、血中の脂質異常がおこったりして、食事や運動などの生活習慣を改善しないと、心筋梗塞や脳卒中などがおこりやすくなる状態をいいます。

問 27 内臓脂肪症候群 (メタボリックシンドローム) や、生活習慣病の予防や改善のため、適切な食事や、定期的な運動などを継続的に実施していますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. 半年以上継続している
- 2. 半年未満である
- 3. 現在はいしていないが、近いうちに始めようと思っている
- 4. 現在していないし、始めようとも思わない

問 28 歯や口の健康状態について、現在どのように感じていますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. ほぼ満足している →問30へ
- 2. やや不満だが、日常は特に困らない
- 3. 不自由や苦痛を感じている

問 29 問28で「2. やや不満だが、日常は特に困らない」「3. 不自由や苦痛を感じている」と回答した方にお聞きします。次のような症状はありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 歯が痛んだり、しみたりする
- 2. 歯肉から、出血する
- 3. 歯肉が腫れる
- 4. 食べ物が、歯と歯の間にはさまる
- 5. 唾む、味わう、飲み込む、話すことに不自由がある
- 6. 入れ歯があわない
- 7. その他 ()

V 食の安全について、お聞きします。

問30 食品を選ぶとき、どのような点に気をつけていますか。
(あてはまるもの3つまでに○)

- | | |
|---------------|------------|
| 1. 賞味 (消費) 期限 | 2. 食品添加物 |
| 3. メーカー名 | 4. 原産国 |
| 5. 原産地(国内) | 6. アレルゲン物質 |
| 7. 遺伝子組み換え食品 | 8. 栄養成分 |
| 9. 有機栽培、無農薬栽培 | 10. 特にない |
| 11. その他 () | |

問31 食品を購入するとき栄養成分表示を参考にしていますか。

(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 参考にしている | 2. ときどき参考にしている |
| 3. あまり参考にしていない | 4. 参考にしていない |

問32 外食の際、栄養成分表示を参考にしていますか。(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 参考にしている | 2. ときどき参考にしている |
| 3. あまり参考にしていない | 4. 参考にしていない |

問33 日頃、食の安全に関して不安に思うことは何ですか。

(あてはまるもの3つまでに○)

- | | |
|------------------|------------|
| 1. BSE (いわゆる狂牛病) | 2. 食品添加物 |
| 3. 残留農薬 | 4. 輸入食品 |
| 5. 遺伝子組み換え食品 | 6. 食品表示の偽り |
| 7. 食中毒 | 8. 放射性物質 |
| 9. 健康食品・サプリメント | 10. 特にない |
| 11. その他 () | |

VI 「郷土料理」や「伝統料理」について、お聞きします。

問34 成田市の地場産物 (有名な農産物や食品) を知っていますか。
(いずれか1つに○)

知っている方は、()の中に知っているものをお書きください。

- | |
|--------------------------|
| 1. 知っている () () () () |
| 2. 知らない () () () () |




問35 成田市の郷土料理 (昔からある料理) を知っていますか。(いずれか1つに○)
知っている方は、() の中に知っているものをお書きください。

- | |
|--------------------------|
| 1. 知っている () () () () |
| 2. 知らない () () () () |

問36 伝統的な行事食を知っていますか。(いずれか1つに○)

- | |
|--------------------------|
| 1. 知っている () () () () |
| 2. 知らない () () () () |

問37 行事食を伴う伝統行事のうち、ご自宅で行っている行事はありますか。
(行っている番号に○)

- | | |
|--------------------------------|---|
| 1. 正月 (1月…おせち、お雑煮、七草粥など) |  |
| 2. 節分 (2月…大豆、いわし料理、恵方巻きなど) | |
| 3. 桃の節句 (3月…五目寿司、蛤の潮汁、ひなあられなど) |  |
| 4. 春分の日 (3月…ぼた餅など) | |
| 5. 端午の節句 (5月…ちまき、柏餅など) | |
| 6. 七夕 (7月…そうめんなど) | |
| 7. 土用の丑 (7月…うなぎなど) | |
| 8. お盆 (8月…精進料理など) |  |
| 9. 十五夜 (9月(10月)…月見団子など) | |
| 10. 秋分の日 (9月…おぼろぎなど) | |
| 11. 七五三 (11月…赤飯、干藏飴など) | |
| 12. 冬至 (12月…かぼちゃ料理など) | |
| 13. 大晦日 (12月…そばなど) | |
| 14. その他 () | |

VII 農業体験について、お聞きします。

問38 農家の方、農業に携わっている方以外の方に、お聞きします。
あなた、またはご家族の方が、農業に関する体験をされたことはありますか。
(いずれか1つに○)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. ある →問39へ | 2. ない →問40へ |
|-------------|-------------|

問39 「1. ある」と回答された方にお聞きします。参加されたことのある体験は、どのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|------------------------------|
| 1. 栽培開始時期の作業 (田植えや、野菜の種まきなど) |
| 2. 栽培途中の作業 (除草作業など) |
| 3. 収穫作業 (稲刈りや芋掘り、野菜の収穫など) |
| 4. 収穫後の加工体験 (餅つきや、味噌づくりなど) |
| 5. その他 () |

問40 「2. ない」と回答された方にお聞きします。農業に関する体験をしてみたいですか。(いずれか1つに○)

- | | |
|----------|----------------|
| 1. してみたい | 2. してみたいとは思わない |
|----------|----------------|

問41 子ども連の食育を進めていくうえで農業に関する体験は必要だと思いますか。
いずれかを選び、理由もお書きください。

- | |
|------------------------|
| 1. 必要
理由 () |
| 2. 必要だとは思わない
理由 () |

問6 学校から帰って、夕ごはんまで、夕ごはんまでの間、おやつを食べますか。1つ選んで○をつけてください。

1. ほとんど毎日食べている
2. 1週間に4～5日 食べている
3. 1週間に2～3日 食べている
4. ほとんど食べない

問7 タごはんは、何時ごろから食べ始めますか。平日の時間で答えてください。1つ選んで○をつけてください。

1. 午後6時前
2. 午後6時～7時の間
3. 午後7時～8時の間
4. 午後8時～9時の間
5. 午後9時すぎ
6. 決まっていない

問8 タごはんの後、ねるまでの間に何か食べますか。1つ選んで○をつけてください。

1. ほとんど毎日食べている
2. 1週間に4～5日 食べている
3. 1週間に2～3日 食べている
4. ほとんど食べない

問9 ごはんは誰と食べていますか。それぞれ1つ選んで○をつけてください。

①朝ごはん

1. 家族全員で食べている
2. 大人の家族の誰かと子どもで食べている
3. 子ども(きょうだい)だけで食べている
4. 一人で食べている
5. その他()

②夕ごはん

1. 家族全員で食べている
2. 大人の家族の誰かと子どもで食べている
3. 子ども(きょうだい)だけで食べている
4. 一人で食べている
5. その他()

問10 次の食品を、どのくらい食べていますか。それぞれ1つ選んで○をつけてください。

①野菜

1. ほとんど毎日
2. 1週間に3～5日
3. あまり食べない

②くだもの

1. ほとんど毎日
2. 1週間に3～5日
3. あまり食べない

③魚

1. ほとんど毎日
2. 1週間に3～5日
3. あまり食べない

問11 あなたは、水、お茶、牛乳以外の飲み物をどのくらい飲みますか。

(1本というのはペットボトル500mlのことです。)
1つ選んで○をつけてください。

1. 1日に2本以上
2. 1日1本くらい
3. 1週間に3～5本くらい
4. 1週間に1～2本くらい
5. ほとんど飲まない

問12 お手伝いをしていますか。あてはまるもの、すべてに○をつけてください。

1. 買い物
2. 料理の手伝い
3. テーブルの準備
4. あとかたづけ
5. 食器洗い
6. その他()
7. 何もしていない

問13 料理を作ることがありますか。1つ選んで○をつけてください。

1. 作る
2. とんどき作る
3. 作らない 一問15へ

問14 問13で「1.作る」「2.とんどき作る」に○をつけた人にお聞きします。誰と一緒に料理を作りますか。あてはまるもの、すべてに○をつけてください。

1. お父さんと
2. お母さんと
3. きょうだいと
4. おじいちゃん、おばあちゃんと
5. ひとり
6. その他()

問 15 食事のとき、「いただきます」「いただきます」「ごちそうさまでした」のあいさつをしていますか。1つ選んで○をつけてください。

1. いつもしている
2. ときどきしないことがある
3. していない

問 16 家族と食べ物・食べ方などについて話をしますか。1つ選んで○をつけてください。また、どのような話をしますか。()の中に書いてください。

1. よくする ()
2. ときどきする
3. したことがない

問 17 あなたが食事を楽しいな・うれしいなと感じるときは、どんなときですか。3つまで選んで○をつけてください。

1. 好きなものを食べているとき
2. 家族みんなで食べているとき
3. 外食のとき
4. バーベキューなど外で食べているとき
5. 学校で給食を食べているとき
6. 自分で作ったり、手伝ったものを食べているとき
7. 一人で食べているとき
8. テレビや本を読みながら食べているとき
9. 特にない
10. その他 ()

問 18 どのようなことに気をつけて食事をしていますか。あてはまるもの、すべてに○をつけてください。

1. ゆっくりと時間をかけて食事をする
2. 食事はよくかんで食べる
3. 朝・昼・夕と3食かならず食べる
4. 栄養バランスを考えて食べる
5. できるだけ多くの種類を食べる
6. ジュースなどを飲みすぎない
7. お菓子やスナック菓子を食べすぎない
8. はしの持ち方などのマナーを残さず食べる
9. 残さず食べる
10. 塩辛い(しょっぱい)ものを食べすぎない
11. 牛乳や小魚を食べる
12. 野菜を多く食べる
13. 好き嫌いしない
14. ごはんとおかずを、かわるがわる食べる
15. 楽しく食べる
16. その他 ()

問 19 学校の給食は好きですか。1つ選んで○をつけてください。

1. 好き
 2. どちらかといえば好き
 3. ふつう
 4. どちらかといえば嫌い
 5. 嫌い
- 問 21へ

問 20 問 19で「1. 好き」「2. どちらかといえば好き」に○をつけた人にお聞きします。その理由は何ですか。3つまで選んで○をつけてください。

1. おいしいから
2. お友達と一緒によい、みんなで食べられるから
3. 先生と一緒によい食べられるから
4. みんなと同じものが食べられるから
5. 好きなものが食べられるから
6. 家では食べられないものが食べられるから
7. 栄養のバランスがいいから
8. その他 ()

問 21 給食を残すことがありますか。1つ選んで○をつけてください。

1. 全部食べる
 2. ときどき残す
 3. いつも残す
- 問 23へ

問 22 問 21で「2. ときどき残す」「3. いつも残す」に○をつけた人にお聞きします。それはどうしてですか。3つまで選んで○をつけてください。

1. 量が多い
2. 食欲がない
3. 太りたくない
4. 一度にたくさん食べるとはずかしい
5. 時間が長い
6. おいしくない
7. きれいなものがある
8. からの調子が悪い
9. その他 ()



第2次成田市食育推進計画

発行 成田市

編集 経済部 農政課

〒 286-8585

成田市花崎町760番地

TEL 0476-20-1542

FAX 0476-24-2185

E-mail nosei@city.narita.chiba.jp

発行日 平成30年 3月

登録番号 成農17-053

